



114
A1436
3



史 第六章

「ジョージ三世」ノ即位○佛國戰爭一十七百六十二年ニ終ハル
 ○佛國ト和親ノ時ニ於ケル國債ノ額數○英國銀行十五封
 度及ヒ十封度紙幣ヲ發行ス○平時施政上ノ用費ノ増進○濟
 貧稅ノ増進○濟貧法ヲ廢棄セント欲スル初度攻撃○貿易
 ノ衰頽○「ロルド、ビュウト」氏宰相ニ任ス○「ポーランド」ノ分奪
 ○「ロルド、ビュウト」氏民心ニ逆テ無法ノ稅ヲ米國殖民ニ課ス
 ○「ロルド、カザム」氏ノ反對論○米國人民ノ抵抗○米國戰爭
 ○「ピット」氏宰相ニ任ス○並ニ同氏財政ノ方畧○地 銀行
 進歩○一十七百七十三年ニ於ケル國債ノ額數○棉花貿易
 ノ初起○英國議院改革案初度ノ建議
 「ジョージ」二世歿シ其孫繼テ位ニ即ク之レヲ「ジョージ」三世ト稱ス生
 得舉動甚、拙劣ニシテ言語粗暴其躰格強健勇猛ノ状アリテ稍

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

ヤ角力者一類シ而シテ人間勾躰ノ嗜欲ニ至リテハ猶ホ餘リマ
 レモ其前額狹小ニシテ適々以テ材智ノ故乏ヲ表スルニ足ル抑
 モ「ジョージ」三世ノ位ニ即キシキ既ニ英國ハ彼佛人ノ英領亞米利
 加ニ侵入シタルヨリニ佛國ニ向テ戦争ヲ開ケリ然レモ幸ニ
 米國ニ於テハ英ノ勇將「ゼ」子ラル、ウ「アル」氏「クエー」ベツキ城「塵」戰
 ニ單死シ勝利ヲ死後ニ全フセシカ故ニ後テ終ニ「カナダ」ノ我カ
 叛圖ニ入ルハ實ニ同氏ノカト去フヘシ「クエー」ベツキ落城ハ一千七
 百五十九年ナリシカモ英佛兩國間ノ葛藤ハ尚ホ一千七百六十
 三年ニ至ル迄鮮ケズ該年ニ至テ和親終ニ成リ「カナダ」全ク我カ
 叛圖ニ歸セリ然レモ右戦争ノ結果ヲ觀察スルキハ其「カナダ」畧
 取ハ必ラスシモ憚ラヘキ「ノ」ミニ非サルナリ何トナレハ該戰
 争タルヤ終ニ七年ニ及ハスト雖モ之レカ為メ國債ハ増シテ二
 倍ノ多キニ至レリ余輩既ニ戦争毎ニ國幣空乏シ而シテ其募債

ノ度毎ニ如何ノ大額ヲ募ルモ其影響ハ猶ホ一層巨額ノ債ヲ募
 ラサルヲ得サルニ至タルヘキハ一般理財ノ道理ナルヲ觀察セ
 リ然ルニ右ノ戦争ノ如キハ遠ク兵ヲ他ノ半球ニ出セシ「ナル」
 ヲ以テ其費用ノ多キハ必然ノ理ナリ即チ「ペル」ハム氏國債ヲ減
 額シタル後チ一千七百五十五年開戦以來國債ノ増加シタル「
 尤」ノ如シ

	元	金	利息
一千七百五十五年ニ於テ	七四、五七一	八四〇	二、四一六
同年ヨリ一千七百六十三年	七二、一一一	〇〇四	二、四二四
迄ニ募集シタル右両債	四六、六八二	八四四	四、八四〇
總計	一千七百六十三年ニ於ケル		八二一
右已ムヲ得サルニ發生シタルセケ年戦争ノ為メ我國ハ一方ニ			
於テ既ニ國債ト稱スル無底ノ泥濘ニ沈没スルコト之レヲ旧來			

歳
 百

ニ比較スルハ二倍ノ深キニ至レリ又タ此ニ加ヘテ人民他ノ一
変頗フル幽晦ノモノヲ今マ南メテ發見セリ是レ他ナシ公債ナ
ルモノハ独リ軍費ヲ増加スルノミナラスホク能ク國內ノ平安
ヲ維持スル施政上ノ費用ヲ増加セシト云フナリ蓋シ日常必
用品ノ如キ商品ニ於ケル間税ハ必ラス物價ヲ騰貴スルモノ
リ物價騰貴スレハ從テ必ラス上ハ帝王ヨリ下ハ殺手ニ至ル迄
政府官吏ノ俸給ヲ増サ、ルヲ得ス故ニ右ノ方法ニ於テハ平時
施政ノ費用モ軍費ト共ニ増進シ各戦乱ノトキ募債スルキハ其
影響必ラス戦後平時施政ノ費用ヲ増加スルナリ今マ右ノ議論
ニ付キ一ノ鳥觀景ヲ以テ読者ニ與ヘント欲ス即チ國債募集ノ
起初タル大改革ノ時限以來各平時施政ノ費用ヲ比較シ以テ右
議論ノ理由ヲ読者ニ開示セント欲ス而シテ余輩其平時施政費
比較表ニ據テ其各費額ヲ参考スルニ當リテハ濟貧稅增加ノ問

予カ一ハ

題ニ付テ既ニ開陳シタル如ク必ラス紙幣發行ノ増加ヨリ生ス
ル物價ノ騰貴ト通貨價直ノ漸次下落トハ右比較ノ差額ヲ増加
スルノ原因ナルヲ以テ其精算ヲ看ント欲セハ其全額ヨリ若干
ノ減額ヲ為サ、ルヘカラズ然ト雖氏平時施政費増進ノ大原因
ハ國債ノ利息支辨ノ為メ收稅ヲ増加シタルヨリ從テ物價ヲ騰
貴シタルニアリテ紙幣ノ發行ニアラサルマ疑ヲ容レサルナリ
何トナレハ則チ當時英國銀行稍マ盛ナリト雖氏猶ホ未タ其紙
幣ヲ以テ突然非常ニ英國ノ通貨ヲ下落セシムル程勢カヲ有セ
サリシ故ヨリ一千七百五十九年前ハ二十封度紙幣ヲ以テ其發
行紙幣ノ最小額ト定メ此レニ下ルモノヲ發行スルヲ許サ、リ
シカ「カナダ」戦争中十五封度及ヒ十封度銀行紙幣ヲ發スルヲ許
可セリ然レ雖氏紙幣ハ独リ英國銀行ヨリ發行スルノミナレハ
此時既ニ地方ニ於テ銀行事業ヲ営ムモノアリト雖氏其數甚タ

僅少ニシテ其事業モ亦極テ些少ナレハ舉示スルニ足ラス我
 カ全國通貨ノ際ニテ金銀ヨリ組成スルモノニ著シク影響スル
 一ナキヲ知ルヘキナリ是ノ故ニ余輩ハ「ウヰリアム」三世ヨリ「ジョ
 ジ」三世ニ至ル間ニ平時施政費用ノ非常ニ増進シタルヲ以テ此
 レヲ政府公債ヲ募集シタルト其利息支辨ノ為メ收税ヲ増加シ
 タルトノニ原因ニ歸セサルヲ得ス夫レ平時施政費ニハ政府ノ
 經費及ヒ收税ヲ以テ支辨スル國王ノ費用ヲ含有ス但シ各別ニ
 其支辨ノ方法ヲ定メタル國債ノ利息ハ此費中ニ算入セズ即チ
 右施政費ト利息トヲ合計シタル金額ハ人民ニ課セサルヲ得サ
 ルイシナレバ經常歲入ノ金額ナリ然レ氏萬一前年ノ餘贏アルハ此分ヲ
 除カサレハ經常歲入トハ云ヒ難シ

	平時施政費	
封度		歲入
		封度

一千六百八十八年「ウヰリアム」三世	一、九〇七、四五五	三、八九五、二〇五
一千七百〇六年「アン」	一、九六五、六〇五	五、六九一、八〇三
一千七百十四年「ジョージ」一世	二、五八三、〇〇〇	六、七六六、六四三
一千七百二十七年「ジョージ」二世	二、七六六、〇〇〇	八、五二二、五四〇
一千七百七十年「ジョージ」三世	四、三二二、九七二	九、一六三、七九三

右表ニ就テ觀察ヲ要スル点ハ即チ「ウヰリアム」三世ノ施政費中ニ
 ハ皇^{シヨウ}俸ノ名称アル費目ヲ含有セサルコト是ナリ蓋シ談王ヨリ
 女皇「アン」統治迄ノ費用ハ大半久年議院及ヒ女皇「アン」ノ回復シ
 タル王領地ノ歲入ヲ以テ之レヲ支辨セリ然レ氏女皇「アン」即位
 ノ時ニ於テ約束ヲ定メ總テノ王領地(但シ「コルンウアル」ノ領地ハ
 威^{ウヰ}勃^ス士ノ公國ナルヲ以テ此レヲ除ク)ヲ舉テ之レヲ議院ニ付托
 シ議院其地稅ノ代リニ一般ノ收稅ヨリ若干ノ年俸ヲ供奉スル
 一トセリ女皇「アン」ノ歲俸ハ六十萬封度ナリト雖氏國債ト收

税トノ増加スルニ從テ皇俸モ亦々逐次ニ増進ス此事實ニ就テ
 ハ余輩此ノ後テ詳細ニ之レヲ陳述スヘシ夫レ皇俸ヲ供スルノ
 新法ヲ制定シタル人々ハ固ヨリ勤王黨ニアラス蓋シ此ノ皇俸
 ナルモノハ君主自己ノ費用ヲ支辨スルノミナラス又テ判事及
 テ其他諸官吏ノ給料捨扶持ノ年俸ハ盡ク此レヨリ支辨ス故ニ
 君主ハ昔日ノ如ク其領地ノ歳收ヲ以テ其費用ヲ支辨スルニア
 ラスシテ最大ノ受年俸者トナリ巨大ノ金額ヲ浪費スルニ似タ
 レ氏實際ニ於テ決シテ然ラサルナリ
 右ニ陳述シタルモノハ則チ國債紙幣ノ影響政府經費上ニ及ボ
 シタルモノニシテ又テ既ニ濟貧割前錢上ニ其差響アルヲ見ル
 惜ムラクハ當時英國ニ於ケル濟貧稅徵集高ヲ記載スル精蜜確
 實ナル記録ノ今日ニ存スルモノハナケレハ其詳細ヲ知ルニ由
 ナシト雖氏花ノ計算ハ正眞確實ナルベシト信スルナリ

封度
 一千六百九十八年ニ於テ
 一千七百百年ニ於テ
 一千七百十四年ニ於テ
 一千七百七十六年ニ於テ

此ノ計算タルマ余ノ曾テ觀覽シタル計算中最モ少額ノ計算ナ
 リ蓋シ計算過大ノ誤リアラシクテ恐レ自カラ過分ノ大額ト信
 スルモノハ必ズ之レヲ除ク而シテ又テ濟貧割前錢總計算書中
 ニハ槩シテ皆テ寺領内ノ詞訟費無益ノ遷移費及ヒ其他ノ諸費
 ニシテ毫モ濟貧ニ關係セサル金額ヲ含有スルヲ胸臆ニ記セサ
 ルヘカラス然ト雖氏當時既ニ濟貧割前錢非常ノ増額アルニ加
 ヘテ又テ商業貿易稍ク衰微ノ状ヲ現シタルカ為メ非常ノ影響

ヲ民心ニ及ボシタルヤ疑ヲ容ルベカラズ當時ノ学士「オシアナ」
新聞記者「ハトリントン」氏ノ言ニ云ク嗚呼人民ハ理財上ノ困難
ヲ感觸スルノミニシテ其所以ヲ知ル能ハスト是レ則チ當時收
税ノ重キヨリ國民ノ困弊スルヲ痛歎シタルモノナリ此ノ氣風
タルヤ「ジョージ三世」即位ノ前既ニ社會ニ顯ハレタルヲ見ル蓋シ
一千七百四十年頃ニ於テ既ニ新聞及ヒ雜誌等ニ據テ以テ喋々
收税ノ増額スルヨリ毛布及ヒ其他土産（土産）製造ノ既ニ衰状ヲ
現ハシ終ニ輕税ノ外國商人ト競争スル能ハサルヲ痛歎スルモ
ノ少ナカラズ然リ而シテ數年ノ後チ意外ノ情勢ヨリシテ商業
ノ不景氣ハ挽回スルヲ得タリト雖ヒ然レハ濟貧割前錢ノ増加
スル勢ハ底止セサリシナリ而シテ此増加ハ「ジョージ一世」統治ノ
時ニ於テサヘ猶ホ且ツ貴族輩ノ好マサル所トナレリ而シテ此
ノ輩ハ諛法ヲ廢シ貧民ヲ踏潰スカ如キ残忍ノ政策ヲ試ミタリ

抑モ教會ノ領地ハ久シク宛民ノ依テ以テ生ヲ保チシ所ナリシ
ニ教法改革以來ハ屢々此法ヲ廢メンテ企圖ヤシモ少ナカラ
サリシナリ
濟貧割合錢ノ事タルヤ始終貴族ノ好マサル所トナリシ蓋シ此
輩ハ皆チ貪慾限リナク財貨ヲ貪テ其飽ヲ知ラサルモノニシテ
恰モ水腫病者ノ渴水ニ於ケルカ如ク其体水ノ増スキハ益々渴
ヲ増加スルト一般ナリ故ニ旧濟貧法（有名ナル「エリザベツ」即位
四十二年ノ制定律）ト雖ヒ容易ニ許行シタルモノニアラス蓋シ
宛民ノ由テ活路ヲ得タル教會領地ヲ強奪シ又十分一稅ノ僧
侶支給法ヲ廢シタルカ為メニ貧民其貧苦宛困ノ餘リ哀訴スル
トアリシモ屢々残忍抑壓ヲ以テ之レヲ制シ叛乱將ニ壞裂スル
ニ至リテ已ムヲ得ス認許シタルモノナリ「チャールズ二世」統治ノ
時ニ當テ「サー、ジョシア、チャイルド」ナル残忍刻薄ナル商アリ同シク

貧民救濟 貧慾心ヨリ大胆ニモ殖民事務取扱委員ヲシテ國內ノ宛民ヲ米國開拓地へ移サンコトヲ建議セシテアレバ其議終ニ寢ス然レバ濟貧割前錢ノ益々増進スルヨリ「ジョージ」一世即位九年ニ於テ議院終ニ一條例ヲ議決ス此レヲ女皇「エリザベツ」ノ制定シタル濟貧法ヲ減却セント欲スル初度ノ攻撃ト稱ス即チ此條例ニ據テ各寺領ノ管事ハ各其寺領内住民過半數ノ決議ヲ以テ家ヲ買ヒ若クハ借リ救育院トナシ宛民ヲ此内ニ養フ約束ヲ定ムヘキモノナリ又タ管事ハ該條例ニ由テ貧民ノ右救育院ニ住スルヲ肯セサルモノニハ救助ヲ與ヘサルモノナリ夫レ此殘廢ノ條例ヲ制定シタル目的ノ第一ハ則チ救育院内ニ給養スルノ方法ハ戶外ニ救恤スル旧法ヨリ稍ヤ儉約ナルト第二ハ則チ此ノ如ク救育院内ニ禁錮スルキハ貧民其宛屋ヲ壓ヒ自カラ寺領ノ救濟ヲ乞フコト或ハ少ナカルヘシト預定スルニ出ルモノ

ナリ而シテ其實施ノ始ニ於テハ一年乃至二年ノ間ハ救育院ヲ設置シタル場處皆テ該割前錢減シテ通常平均ノ下ニ落タリ然ト雖氏此新濟貧法タルヤ其院内貧民ノ待遇取扱其宜キヲ得テ食物モ惡カラズ規則モ緩ナレハ始メ之レヲ嫌惡セシモ忽チ變シテ其入院ヲ嫌惡スルモノナキニ至リ此新法ニ由テ巨數ノ貧民ヲ給養スルノ費用遠ク戶外ニ救恤スル費用ニ超過シ到底其結果ハ旧濟貧法ヲ施行セシトキヨリ一層割前錢ヲ増額スルニ至レリ此ニ於テ該方策モ忽チ失敗シ廢用ノモノトナリ從テ條例モ亦不用ニ歸セタルヲ以テ之レヲ廢棄セリ是レ則チ女皇「エリザベツ」即位第四十三年ニ於ケル名高キ濟貧條例議決以來貧民ノ推テ減却セント欲スル初度ノ攻撃ナリ

余上文ニ於テ既ニ我カ國曩ニ佛國西國等ト戰ヲ闘キ終ニ「カナダ」ヲ侵畧シ而シテ一千七百六十三年ニ和親條約ヲ批准シ以テ

葛藤ヲ鮮キタルヲ記載セリ實ニ此ノ名高キ戦争ニ勝利ヲ得タルヨリ南ハ「フロリダ」ノ曲江ニ至ル迄北米ハ全ク既ニ我カ版圖ニ歸シタリト云フヘシ故ニ當時若シ英國ニ善良賢明ノ政府アリテ其宜キヲ得ハ必ラス此ノ廣大ナル米殖民地ヲ擧テ永久我カ所屬トナシ大ニ我カ國ノ富強ヲ増シタルヘシト確信スルナリ然ト雖氏此ノ時ニ當テ我カ國ハ既ニ一千六百八十八年民黨革命ヨリ發生シタル管理毒惡ナル政策ノ果実タル辛酸ヲ瀕口ニ嘗ムルノ不幸中ニ沈没セリ蓋シ其惡兆ノ顯ハレタルハ則チ我カ將「ウォルフ」氏貴壁ノ鏖戰中ニ勝利ヲ得シ後チ久シカラスシテ「ジョージ」二世ノ歿シタルニ始マル何トナレハ則チ「ジョージ」三世位ニ即クト雖氏闇愚懦弱ニシテ人君ノ度量材識ナク太后政ヲ報リ推ヲ擅ニス太后ハ賦性淫乱放蕩ニシテ忠臣良士ノ諫ヲ用ヒス主トシテ其情夫蘇格蘭人「ビュウト」侯ヲ宰相ニ擢シ政務ヲ委

任セリ而シテ「ビュウト」侯ノ威内外ヲ傾ムク此「ビュウト」侯ハ才識庸劣ナルヲ以テ奸邪諛佞朝廷ニ充滿シテ堂々タル朝廷復ク一人ノ讜言正議ノ士ナキカ如ク然リ此ノ時ニ當テ「ビュウト」氏及ヒ其他ノ当局者ハ夫ノ「カナダ」ヲ侵畧シ兵威ヲ輝ヤカセシハ人民ノ満足スル所トナリタレ氏前年架空ノ目的ヨリ屢々不義不正ノ戦争ヲ興シ為メニ後世子孫ヲ抵当トシ募集セシ國債ノ巨額ニシテ殆シト負擔ニ勝テサルハ人民ノ不平ヲ唱フル所トナリタルヲ祭見セリ然レ氏「レッシ」「ビュウト」ノニ宰相ハ此ノ如キ財政困難ノ時ニ當テ猥リニ國債ヲ浪費シ放蕩奢侈私利ヲ營スルニシテ及々トシテ既ニ衰頹シタル我カ國ノ富源ヲ計カルヲ勤メス貪慾ニモ眼ヲ米國殖民地ニ轉シ其慾ヲ此ノ處ニ逞セント圖レリ夫レ米國諸殖民地タルヤ「カナダ」ノ版圖ニ歸セシヨリ聯合一致シ以テ一強富國ヲ組成シ國內ノ富源ハ際限ナク政州人種ノ

女
歳
省

民口既ニ三百萬ノ多キニ至レリ然リ而シテ此ノ天惠地福ノ國
土ニ英國政府重稅ヲ課シ其收稅ヲ以テ自己ノ私有ニ供セルト
企圖シタリ其コレヲ企圖シタルノミナラス猶ホ議負ノ是認ナ
ク又タ其是認ニ反シテ實際ニ其專斷ヲ以テ重稅ヲ課セリ是レ
蓋シ英國當時ノ王ハ半蠹子ナルニ宰臣權ヲ弄シテ國ヲ誤マル
ノ罪ヲ以テ自カテ世累ニ表スルモノ、如ク然リ
夫レ此ノ殘虐無道ノ稅法ヲ殖民地ニ施行セントスルニ當リ英
國中賢明方正ニシテ賄賂ノ為メニ其志操ヲ動サ、ル人々ハ皆
ナ初メヨリ喋々其稅法施行ノ不是ヲ痛論シ其必ラス叛乱ヲ來
タスヘキラ慨歎セリ而シテ當時「ジョンソン」ナル論者アリ政府ニ
諂諛シ其立論ノ不明行文ノ卑劣ナルヲ省ミス雜誌ヲ發行シ收
稅非虐政ト題シ類リニ殖民課稅ノ政策ヲ贊成セリ斯ヲ以テ當
当局者ハ愛顧スル所トナリ下賜金ヲ得ルニ至リ一時得意ノ順

境ナルカ如クレ直ニ公衆ノ指突スル所トナリ後世復ク其人
ヲ知ルモノナキニ至レリ嗚呼此ノ厚顏無耻ナル諂諛者ヲ以テ
彼正理ヲ唱ヘ公道ヲ主張シ其課稅政策ノ險害ヲ切論シタル「カ
ザム」氏ニ由スレバ其賢不肖果シテ如何ソヤ夫レ「カザム」氏ハ其
英名ヲ萬世ニ傳ヘテ朽チサルモノト稱スヘシ而シテ余ハ其人
ノ性質ヲ詳記スル此ノ編述ノ主義ニテラスシテ此ノ處ニ其切
徳ヲ頌揚表旗スル能ハサルヲ恨ムノミ抑モ「カザム」氏ハ材識ニ
長シ德行忠勇ナルヲ以テ騎馬隊ノ旗手「コロンウ」州ノ輕輩
ヨリ累遷シテ終ニ高官ニ登リ始終英國人民ノ愛敬ヲ得テ衰ヘ
サリシナリ蓋シ又ク正直深慮ニシテ能辨ヲ兼タル古今政治家
ノ一人ナリ而シテ同氏ハ其標目スル所ノ「カニバルス」オプ「チエー
ン」チ「アリー」ナル奸人輩ヲ規ル「仇讎」啻ノミナラサルナリト云
フ又タ人アリ同氏ニ告テ曰ク公ノ施行セシ方畧ノ為メニ國債

証券上ニ恐慌ヲ惹起セリト同氏コレヲ聞テ依然トシテ答テ曰ク國債証券下落スルキハ則チ我カ國ハ必ラス繁榮スヘシト此ノ時ニ當テ我カ政綱大ニ弛ミ閣主位ニ在リ艾臣「スコットラン」人「ビュウト」嬢婦ナル大后國命ヲ執リ暴威ヲ逞スルカ故ニ智德勇兼備ノ「カサム」氏アリテ殖民地政策ノ不是ヲ諫争痛論シ加之ニ自餘我カ國ニ於テ屈指ノ忠良方正智畧ノ士皆ナ同氏ノ意見ヲ贊成スト雖氏其議終ニ用ヒラレス然リ而シテ執政者ハ益々苛刺ノ課稅ヲ主張シ米國殖民カ屢々哀訴抗論スルモ其壓制ヲ極メテ之レヲ省ミサルナリ而シテ議院アリト雖氏執政者ノ賄賂ヲ受ケ既ニ行政官吏ノ行為ヲ監督スル貴重ノ性質ヲ失ヒ恰モ政府ノ奴隸ニシテ執政者ノ命ニ惟レ從ヒ證印稅條例ヲ議決シ茶稅ヲ決行セリ是レ全ク殖民所議會ノ意見ニ反對シテ米民三百萬ノ自由ヲ妨害シタルモノナリ然ト雖氏英國政府ハ之レ

ヲ以テ足レリトセズ殖民地ヨリ其困苦ヲ英國議院ニ歎訴センカ為メ派遣シタル代理委員ニ對シテ大ニ凌辱ヲ加ヘリ其結果ハ則チ米民其抑壓凌辱ニ對シテ終ニ義兵ヲ興シ我ニ抗スルニ至レリ是レ實ニ一千七百七十四年ナリ而シテ其開戦ノ後チ久シカラス「カサム」氏上院ノ議場ニ於テ忽焉トシテ歿セリ嗚呼此ノ人絶倫ノ材識アリテ屢議場ニ於テ智辨ヲ振ヒ殖民所政策ノ不是ヲ説キ其歿スルニ至ル迄開戦ノ不可ナルヲ論セリ而シテ其言終ニ用ヒラレサリシハ豈ニ歎セサルヘケンヤ然リ而シテ交戦ノ初起ニ在テハ勝敗何レニ決スルヲ知ル能ハサリシカ此ノ時佛人曩ニ其所領「カナダ」ヲ侵畧セラレ其コレヲ會ンテ竊ニ英ニ報セント欲スル所ナレハ忽チ米國ノ請ニ應シ兵食ヲ以テ米兵ノ總督「ワシントン」ニ供セリ此ニ於テ戰運既ニ決シ英國ハ其三軍隊ヲ亡スルノ後チ一千七百八十三年ニ至リ我カ

閣主艾臣其鷲鳥ノ欲ヲ逞ウセント志セシモ終ニ画餅トナリ已
 ムヲ得ス其政治上ノ關係ヲ解キ米殖民地ニ其独立ヲ認許セサ
 ルヲ得サルニ至レリ此ノ不正ノ戦争ヨリ生セシ成果ハ独リ其
 殖民地ヲ失フニ止マラス之レカ為メ非常ニ國債ノ額數ヲ増加
 セリ夫レ佛西戦争ノ末年即チ一千七百六十二年ヨリ米國戦争
 ノ初年即チ一千七百七十五年ニ至ル迄十三年ノ間ニ國債主手
 当年給ノ満期及ヒ其他ニ由テ國債ヲ減額スルコト一千万封度
 ナリ然リ而シテ其残債ニ米國戦争中ノ債ヲ加フレハ則チ尤ノ
 如ク増額スルヲ視ル

元 金	利 息	
	封度	封度
一千七百七十五年國債ノ額數	一三五、九四三、〇五一	四、四七六、八二一
米國戦争中ノ債	一一一、二六九、九九二	五、一九二、六一四

一千七百八十三年ニ於ケル國債總額

二五七、二一三、〇四三

九、六六九、四三五

右ヲ以テ觀察スル片ハ執迷庸弱ノ君大位ニ在ルニ當テ右ノ不
 正ヲ極メシ戦争ノ為メニ國債ハ増シテ二倍トナリ而シテ其利
 息ハ政府ノ全歳入ニ均キニ至レリ此ノ他諛戦争ヨリ釀成シタ
 ル災害固ヨリ許多ニシテ余輩コレヲ後章適當ノ場所ニ於テ開
 陳スヘシト雖氏亦タ茲ニ其不良ヲ忘ル、能ハサルナリ蓋シ古
 今萬國君主不徳ニシテ残虐ノ政策ヲ立テ無道ノ政令ヲ施ス片
 ハ其毒惡ノ成果ハ必ラス流レテ三四世ノ後ニ及フモノナルカ
 故ナリ

米國トノ葛藤ハ殆ント此ノ蠢王統治ノ全代ニ亘リテ諛統治ノ
 間ハ此レカ為ニ寧歳ナキモノ、如シ而シテ此ノ蠢ルタル魔王
 ノ為ニ土炭ニ苦レメラル、人民ハ實ニ惱乱ニ對サルノ情况ナ
 リ而シテ前日ノ叛賊ナル「アダム」氏米合衆國共和政府及ヒ其大

統領「ワシントン」ノ特命全權公使ト為リテ英國ニ使ヒシ其要請
スル所ヲ聞キ廟堂大ニ驚愕落膽セリ而シテ人民ハ又夕國債ノ
増進溢陸軍ノ頽壞貿易ノ衰狀ヲ詳録スル「フランダース」ノ新聞
ヲ視テ大ニ驚愕セリ嗚呼此レ等ノ禍害タルマ英國人民ハ勿論
執權者宜シク後來ノ鑑誡トナシ以テ服膺スヘキ所ナルヘシト
雖氏人無限ノ主權ヲ有スル間ハ常人ノ通情トシテ必ラス實驗
上ノ鑑誡ヲ輕侮シ覆車ノ徵スヘキ歴史アリト雖氏猶ホ一堆ノ
塵紙ニ異ナラスシテ米殖民所政畧失敗ノ鑑誡忽チ忘却セラレ
綱紀再々弛ミ執政者益々殘虐ヲ逞ウセリ然リ而シテ米國戰爭
ヨリ發生シタル直接ノ影響最モ甚シ即テ當時銀行ハ其發行紙
幣ヲ減額シ一千七百八十二年三月ニ九百萬封度ナリシカ一千
七百八十三年十月ニ減シテ五百七十五萬封度ニナセシト雖氏
其準備貨幣ハ僅々四十七萬三千封度ニシテ非常ノ窘迫ヲ致セ

リ然リ而シテ太后及ヒ艾臣「ビュウト」等、横行奢侈ノ政治既ニ去
テ國民志氣稍々振起シ自カテ善良ノ政府ヲ確立シ國家ノ財政
ヲ改良シ平安ヲ維持シ以テ已レヲ水火ノ中ニ救ハシメント切
望スルニ至レリ
當時英國ノ財政既ニ非常ノ困弊ヲ極メタリト雖氏尚之レヲ救
濟スル方法ノ論スヘキナキニ至ラス故ニ全國各地方溜々トシ
テ政治理財改良ノ政策ヲ論シ或ハ其意見ヲ建議シ或ハ其策論
ヲ講説スルアルヲ見ル此ニ於テ「ロルド、ボリン、プローク」スウチフ
ト及ヒ其他諸識者ノ曩ニ前言マシモノ果シテ尽ク其事實ニ符
合スルカ如ク見エタリ其弊害ノ原因ハ則チ財政ノ權ヲ以テニ
三ノ執權者ニ付シタルヲ出ルヲ知ルナリ何トナレハ當時方正
卓識ノ士ニシテ財政ノ改良ヲ論陳スルモノハ皆チ執政者特リ
財政ノ權ヲ掌握シ巨額ノ歲入及ヒ國債事務ヲ舉テ尽ク其專決

ニ歸シタルカ故ニ從テ國財ヲ以テ議院ニ賄賂シ之レテ敗壞シ
以テ已レカ勢カヲ固タフシ暴威ヲ此ノ國ニ逞シウシタルヲ痛
歎シタルカ故ナリ蓋シ此ノ時ニ既ニ君主及ヒ内閣議員共ニ憲
法ニ由テ有スル勢カヲ失ヒ宰相特リ權ヲ擅ニシ已レノ欲スル
人ニアラサレハ其會議ニ參スルヲ許サス然リ而シテ下院ノ議
員ヲ貢スル市邑郡縣ハ非常ニ衰頹貧困ノ情況ヲ顯ハシ執政者
ハ賄賂ヲ議院ノ内外ニ行ヒ以テ益々被擧者及ヒ拱擧者ノ志氣
ヲ壞敗シ已レノ權カヲ固タフス此ニ於テ下院ハ全ク其独立ヲ
失ヒ政府ノ奴隸ニ異ナラス嗚呼人民ハ其時迄些少ノ勢カヲ其
拱擧議員ニ有セシト雖モ此ニ至リ議員ハ終ニ政府黨トナリ又
タ民推ヲ主唱スルコトナシ金満家ト地持者ヨリ組成スル貴族
特リ政權ヲ握リ自由政治ノ名分外容存スト雖モ其英民皆ナ
執權者ノ奴隸ニシテ其情況「タニス民ノ其王ニ於ケル魯民ノモ

スコビト帝ニ於ケルカ如シ是レ當時識者ノ皆能ク知ル所ナリ
當時方正卓識ノ士ハ皆ナ必ラス上文ニ開陳シタル理由ヲ觀察
セリ而シテ又タ國債ヲ募集シ巨額ノ收稅ヲ課シ紙幣ヲ發行ス
ルカ如キ政策ハ唯タ國威ヲ毀傷シタルノミニシテ少シモ國力
ヲ増加セサリシヲ知レリ蓋シ募債増稅タルマ屢々外國戰爭ニ
由テ空乏セシ國幣ノ急ヲ救フ為ニ施行セシモノナリ而シテ其
成果ハ大ニ國威ヲ損シ國民ノ志氣ヲ委靡スルニ至リシマ明カ
ナリ夫レ我カ「カナダ」ヲ侵略シタル時ヨリ米國殖民ト開戦ノ時
ニ至ル間・墺地利・魯西亞・普魯西ノ三國ハ其英佛爭鬪互ニ疲弊
スルノ虚ニ乘レテ近代未曾有ノ不信不義ナル掠奪ヲ為セリ是
レ即チ「ポーランド」ノ掠奪ナリ此ノ掠奪タルヤ實ニ米國殖民ト
開戦前即チ一千七百七十二年乃至七十三年ニ起レリ是レ此レ
ヲ不信ノ一大強盜ト謂ハサルヲ得ス蓋シ強盜ヲ為シタルモ

ノハ右三國ノ皇帝ナルヲ以テナリ)而シテ原ト此ノ強盜ヲ計畫
シタルモノハ則チ奸智ナル魯國女帝「カザリン」ニ世ニシテ以未
魯國ノ屢々隣國ヲ侵畧蠶食スルハ之レヲ嚆矢トス而シテ當時
我カ國多事此ノ非舉ニ抗スルコトナク終ニ魯國ヲシテ強奪ヲ
逞シウセシメタルハ實ニ遺憾ト云フベシ殊ニ此ノ強奪ノ成果
ハ魯國ヲシテ其主權ヲ君子但丁ニ設立スル基礎ヲ置カシムル
ニ異ナラス蓋シ其主權ヲ君子但丁ニ設置セント欲スルハ即チ
今ニ至ル迄魯國ノ宿志ナリ此ノ時ニ當テ特リ豪傑「ロルド・カサ
ム」氏意ヲ此点ニ向ケ其強奪ノ大背義ナルヲ表明シ其成果ヲ觀
察シ其防禦ヲ主張シタリシト雖氏當時英佛既ニ久シク葛藤ヲ
結ビ共ニ疲弊シ「ポーランド」ヲ救フヘキ兵食ニ乏シクシテ其議
ニ及ハサルニ復タ米國戰爭既ニ起リタルヲ以テ三國ノ盜帝ハ
容易ニ之レヲ分奪スルヲ得タリ

右「ポーランド」分奪ノ如キハ欧州ノ大勢ニ大關係ヲ有スルモノ
ニシテ之レヲ回顧スレハ人皆チ自カラ驚駭憤恨憤懣止マズ從
テ我カ國民非常ニ其精神ヲ振起シ當時ノ政府ニ向テ不満ヲ唱
ナフルモノ多ナカラス是ノ故ニ世人初テ囂々財政ノ釐革議院
ノ改良ヲ論シ苟モ中等以上ニ位スル人々ノ感覺演說意見ハ全
ク其面目ヲ變化シ新況ヲ現シ而シテ將ニ我カ國ニ起ラントス
ル制度人情ノ變遷ヲ豫示スルモノニ似タリ而シテ當時ノ學士
論者或ハ新聞雜誌ヲ發兌シ或ハ大小ノ著述ヲ為シ百方政府財
ノ困難政道ノ不是ヲ歷詆シ政府百般ノ弊害ヲ攪發表明セリ然
リ而シテ其當時著作ノ書籍タルヤ悉ク今日ニ存セスト雖氏其
書目ハ尚ホ存スルヲ以テ其書各ノ目錄ヲ視レハ則チ今日ノ世
ニ在テ當時ノ情勢ヲ想像スルニ足ルヘシ而シテ其書タル實ニ
過クルモノ虚ニ過クルモノナキヲ保ヤサレ氏之レヲ要スルニ

復々其中讀者ノ神思ヲシテ爽快ナラシメ且ツ後來ノ變遷ヲ警
スルニ足ルモノ下リ而シテ其著述者ニハ貴族アリ平民アリ其
數固ヨリサナカラス今余ガ聞知スル所ニ據レハ即チ左ノ人
々ナリ「ヤール、オフ、スタール」マール、スタシホー「ア
ン」ロルド、グンドナルド「アルテニー」ロルドバス「セ、ビ
シヨフ、オフ、クロンヌ」バロンジルベルト「サー、マーセウ、テ
ッカル」サー、シヨンタル
リム、プル「サー、シヨン、バルナルド」エドモンド、ブルク「サ
ミエール、シヨン
ソシ」ガニール、デフラー「イデシ」サー、シヨン、シ
ンク「ライ」ドクトル、プラ
イス「ヘンリー、ハートリ」アーゾル、ヨン「グ」ドクトル、セ
ビ「アール」
等ナリ

然リ而シテ其著述書ノ中ニ訖テ立論明晰ニシテ文章精切ナル
モノハ即チ左ノ如シ
ゼ、子ーシヨナル、デッド、ノー、子ーシヨナル、グ、ビマシス
(一千七百七十

八年出板

國債ハ國ノ災害ニ非ラサル論

エ、スキーム、ツ、ペイ、オフ、ゼ、子ーシヨナル、デッド、バイ、エ、レ
ピール、
オフ、ゼ、マリーエー「ヂ、アクト」(一千七百六十七年出板)

婚姻條例ヲ廢シ國債ヲ償還スヘキ方法ノ論

エン、アッピール、ツ、ゼ、パブリック、オン、ゼ、デッド「リッ
チド、フ、ライ、ス、ヂー、
ヂー、エフ、アール、エス、氏ノ著ニシテ一千七百七十二
年出板

國債ノ償還ハ人民ニ依頼スヘキ論

エ、カレヂッド、インクワイリー、インツ、ゼ、プレセント、ル
インド、ス
テイト、オフ、ゼ、フレンチ、モナキー「(一千七百七十年出板)

佛王國現今ノ衰狀説明論

エ、シキーム、ツ、ペイ、ゼ、子ーシヨンス、デッド、イン、サル
チー、イ、ヤール
ス、ウ、サ、アウト、エン、アッヂシヨナル、タッキ「ス」
(一千七百七十八年出板)

收税ヲ増加セシテ三十箇年間ニ國債ヲ償還スル方
法論

ゼ、デッド、コムベールド、ウヰズ、ゼ、レウエニュー、アンド、インポッシビリチー、
オフ、ウラル、ウヰザウト、イコノミー（一千七百八十一年出版）

國債歳入ノ比較并ニ戦争ハ財政ノ困難ヲ來スヘキ論

オールド、ファンツ、サッフビシアント、フאלル、エ、ニウ、ローン、プロボサル、
ツ、ローワー、ゼ、インテレスト、オフ、モニー、アンド、ダッキス、ゼ、ファン
ツ（一千七百八十一年出版）

旧公債ノ金額ニ應シテ新公債ヲ起サ、ルヲ得サルノ

論并ニ貨幣ノ利息ヲ廉ニシ且ツ税ヲ旧公債証書ニ課
スヘキ論

ミーンズ、ツ、レイズ、ゼ、サップライズ、ウヰズ、イン、ゼ、イヤル（一千七百
八十年出版）

此年内ニ資財ヲ徵集スヘキ方法論

フランシス、フאלル、レヂーミンク、パブリック、デッド（アール、プライス、デ
ー、デー氏著ニシテ一千七百八十三年出版）

國債償還方法論

ソウツ、オン、ペイインク、オフ、ゼ、デッド、バイ、エ、ロツテリ。ゼ、プライ
セス、ツ、エライズ、アウト、オフ、エ、ジミニウシヨシ、オフ、ゼ、アンニウ
ル、インテレスト（一千七百八十四年出版）

富講及ニ年利ノ減額ヨリ生スル餘贏ニ由リテ國債ヲ

償還スヘキ論

エ、フラン、フאלル、コンソリデーチング、インツ、ワシ、レト。ゼ、ラ
ンド、ア、インド、オール、アザル、ダッキセス（一千七百八十四年出版）

地稅及ニ自餘ノ税ヲ同一ノ割合ニ歸スル方法論

フランシス、フאלル、フエテール、子トシヨナル、デフュニス（リッチモン）ト、
「デ

イグノ著ニシテ一千七百八十五年出版

将来國ノ防禦ヲ為スヘキ方法論

ダンデュロース、シユエーシヨシ、オフ、エシグランド、アドレス、ツ
ー、ゼ、ランデッド、トレーヂン。アンド、ファンテッド、インテレス（一千七百
八十六年出版）

英國危險ノ狀況論並ニ地主商人及ビ國債主ヘノ告諭
論

子ーシヨナル、デッド、プロダクチーブ、オフ、子ーシヨナル、パロスメリチ
ー（一千七百八十七年出版）

國ノ繁榮ヲ進歩スヘキ國債論

エツピカシー、オフ、エ、シンキング、ファンド、コンシデールド（一千七百
八十六年出版）

償債資金ノ成果論

子ーシヨナル、デッド、デスカッスド、ドワルツ、ミ、ラチカール、アド、スピ
ーチー、ベイメント（一千七百八十六年出版）

國債ヲ速ニ償還スヘキ方法論

レノガエーシヨシ、オル、ニユウ、モウツ、オフ、レアレセンテーシヨシ。アンド、
レイシング、サップライズ（此書ハ確然タル出版ノ年日ナケレド多
分一千七百八十七年ナルヘシ）

改革即チ人民ノ代議及ビ理財徵集新法論

マキアベルス、インファリブル、ミートン、ス、ツ、ペイ、オーフ、アワ、デツツ
アキアベル氏ノ著ニシテ一千七百八十八年出版

「マキアベル」氏著ノ我國國債ヲ償還スヘキ確定ノ策論
右ニ掲載シタル財政論及ヒ右ニ均シキ國債償還ノ方法ヲ論ス
ルモノハカラス、雖モ速ニ其功驗ヲ見サルモノハ蓋シ國民若
シ其國家危急ノ秋ニ當リ金穀ヲ供シ其急ヲ救ハサレハ其危急

既ニ去リ。國家平安ニ復スルハ固ヨリ之レヲ供セサルハ必然
ノ理ナレハナリ。而シテ復タ適マ償還ノ方法ヲ立ルモ屢ハ社會
ノ變化變動ノ為メニ妨碍サレ其目的ヲ實際ニ達スル能ハサリ
シヲ知ルヘシ然ト雖氏此レ等ノ著述ヲ省ルハ我カ國當時人
心旬々奮起ノ形勢ヲ成シ屢々意外ノ變事ヲ來シ終ニ數年ノ後
チ輿論民心ヲシテ一新セシムルニ至ルヲ徵スルニ足ルナリ
米國戰爭後英國政黨ノ軋輾アリシト雖氏是レ自カラ他ノ問題
ニ屬シテ其詳細ヲ記スルハ此ノ編ノ主義ニアラス然ト雖氏乱
後募債ノ為ニ國民非常ノ壓抑ヲ受ケ終ニ之レカ為ニ王黨民黨
ノ外ニ又タ一種ノ政黨ヲ我カ國ニ現出シタルヲ記スルハ適當
ナリト信スルナリ抑モ此ノ新黨タルヤ其持論ハ主トシテ下院
ノ改良ヲ主張シ憲法ヲ回復シテ「ヘンリ」六世ノ統治ニ議決シ
タルニ法令以前ノ制度ニ復セン「フ要セリ蓋シ談ニ法令ハ則

チ各郡内國會議員撰擧ノ推ヲ四十志裁收ノ領地者及ニ其他ノ
領地者ニ賦與シ其制限ヲ立テシモノナリ而シテ有名ナル「カサ
ム」氏ノ弟ニ子當時ノ人傑ナル「ウヰリアム」ピット氏モ亦其草莽ニ
在リシハ其黨ノ一人ナリシ然ト雖氏其宰相ニ任マラレシニ
當テ稍ヤ其意ヲ變シ而シテ其黨ノ主意ヲ概畧要節シテ曰ク其
黨ノ主意持論ニテハ方正忠実ノ宰相タラント欲スルモ得ヘカ
ラサルナリトナリ然リ而シテ談政黨ノ巨魁トモ稱スヘキモノ
ハ「リッチモンド」公是レナリ公ハ現ニ普通撰擧每歲議院會議ノ建
議案ヲ編成活版^版シ以テ下院ノ是非ヲ試ミタリ然氏唯諸人ノ笑
ヲ受ルノミニシテ勿論用ヒラレサリシナリ是レ當ニ然ルヘキ
ノ理ナリ而シテ一千七百八十三年「ピット」氏宰相ニ任シ政黨ノ軋
輾初テ鎮定セリ此ニ於テ同氏其持論タル議院改正ノ主義ヲ擲
却セリ然氏其執推ノ初日ハ猶ホ「ロ」氏執推ノ初日ノ如ク施

政穩当ニシテ其後年ニ於ケル浪費濫用ノ徵候ヲ見サルナリ
「ピット」氏ノ政權ヲ執リシ時ニ當テ財政ヲ釐革シ制度ヲ改良スル
等卓越善良ノ志操ヲ有セシヤ苟モ公平正実ノ心アル人ハ此レ
ヲ信セサルヲ得ス同氏元ト其父「カザム」氏ノ性ヲ受ケ才智能辨
ノ士タラント志サセシマ明ラカナリ蓋シ其執權ノ初ニ於ケル
政策ヲ觀ルニ尽ク此ノ精神ノ現ハレタルニアラサルハナシ即
チ同氏宰相ニ任シ政權ヲ掌握セシヤ從來非常ノ混乱ヲ致シタ
ル我々國財政ノ事務ヲ直ニ調理整頓スルノ大事業ニ着手シ先
ツ海關稅則ヲ調理簡易ニシ新ニ國產課稅法ヲ制定セリ既ニ斯
ノ如ク收稅法ヲ改良シ而シテ特リ麥芽稅及ヒ其他二三ノ年稅
ヲ除クノ外ニ諸稅ヲ合シ集_ミ合_ス資_本ヲ作り主トシテ此レヨリ國
債ノ利息及ヒ皇_俸ヲ支辨スル_トス又夕歲入ノ餘贏ヲ以テ償_債
資_金積立ノ方法ヲ定ム此ノ方畧ハ此レヨリ數年ノ後チ同氏

其宣說者「エッヂメント」ノ建議ヲ採用保護シタル誤謬ノ方法ト異
ナレリ然リ而シテ「ピット」氏其執權ノ初ニ於テハ此ノ如ク財政ノ
弊害ヲ改良スルニ汲々タルヲ觀レハ一千七百九十三年佛國ノ
大改革ニ英國他ノ諸國ト同盟連衡ニ以テ佛國新共治政府ニ抗
敵シタリレ時迄ハ百般ノ改良ニ注意シ憲法ノ如キモ當時々勢
人情風俗ノ許ス所ハ種々改良シタルマ疑ラ容レサルナリ例之
一千七百九十年「フアックス」氏ノ建議シタル讒謗律改正議案ノ如
キモ「ピット」氏之レヲ默許シ終ニ法律トナレリ蓋シ該議案タルヤ
讒謗事實ニ審判及ヒ法理ノ審判ヲ以テ尽ク陪臣官ニ任スルモ
ノナリ（此ノ改正ノ前ハ不文律ニ由テ讒謗被告ハ全ク判事ノ專
斷スル所ニシテ屢々不正ノ判決ヲ受クルトアリシナリ）又夕同
氏ノ「インヂアン」_ルノ如キハ世之レヲ詭策ト言ヘルカ果シテ
其詭術タルハ疑ヲ容レサレ氏是レ尒夕其父「カザム」氏ノ主義ヲ

續テ其方策ヲ改良シタルニ外ナラス是故ニ以上言フ所ヲ緊論
スレハ「ピット」氏ヲシテ當時尚ホ一層ノ生ヲ保チ平時數年間其善
政ヲ維持セシメハ必ラス大益ヲ我カ國ニ致シ天下後世之レヲ
國ノ恩人ト仰崇シ其英名ハ父「カザム」氏ト並馳シタルヘシト確
信スルナリ！嗚呼此ノ偉業ヲ遂クル能ハス其執權ノ末年ニ至テ
禍難ヲ此ノ國ニ遺シタルハ謂ツヘシ切ラ一簣ニ缺クモノト然
レ氏其所以ハ蓋シ又タ故アルナリ抑モ此ノ時ニ當テ私論ヲ主
張シ私利ニ汲々シテ國家ノ安全幸福ヲ謀カルモノハ蓋シ少ナ
シ而シテ其私利私論ノ黨派朝野ニ充満シ政治ノ變動禍乱ヲ
起サントセリ然リ而シテ此ノ輩ノ意見議論ハ其良否ノ如何ヲ
問ハス悉ク激烈ニシテ「ピット」氏ノ又タ能ク拒ムヘキ所ニアラサ
レハ數年ヲ出スシテ終ニ此ノ輩ノ為ニ誤ラレ其性儀トナリ其
執權ノ初年ニ於テ経倫ノ大材ヲ以テ財政ヲ釐革シ制度ヲ改良

シ忠直節儉温^和ヲ主トシ漸ク其治績ヲ舉ゲタルモ一蹶シテ全ク
水上ノ泡ニ帰セリ其激徒ニ逼迫セラレ兵ヲ佛國ニ出シ兵結ミ
テ解ケス騎帑ノ勢止ムヲ得ス為ニ巨額ノ國寶ヲ浪費シ財政不
測ノ海底ニ沈没シ終ニ又タ之レヲ出ツル能ハス精神衰耗シ心
膽碎ケテ歿スルニ至レリ是レ則チ外國政畧ヲ誤リ無益ノ戰爭
ヲ起シ為ニ非常ノ國債ヲ浪費シ國ヲシテ不測ノ禍ニ陷イレ而
シテ尚ホ許多ノ災兆アリテ又タ將ニ踵ヲ接シテ破裂セントス
ルヲ見テ悔恨憂愁鬱悶ノ極此ニ至リシヤ明カナリ
一千七百九十三年俄然佛國ト戰ヲ開キシ前ニ於テハ此國ノ情
況大ニ改良進歩シ米國戰爭敗北ノ惡果モ既ニ消滅シ國債收稅
ノ人民ニ於ケルヤ尚重大ナリト雖氏人智大ニ進歩シ學術工藝
ノ開進シタルヨリ機械ヲ發明シ以テ人勞ニ代用シ初テ盛ニ製
造事業ヲ創立シ一時外國ヲシテ敢テ競争スル能ハサルノ域ニ

至ラシメタリ然ト雖氏又タ一方ヨリ觀察スレバ之レカ為ニ惹
起シタル弊害モ亦ク僅クナラス抑モ余カ此處ニ機械ノ發明ト
稱スルモノハ一般ニ大約一千七百七十年「ワット」氏蒸氣機関ノ改
良ヲ云フナリ又タ製造事業ヲ創立スト稱スルモノハ殊ニ綿布
製造及ヒ機械ヲ以テ棉花毛亜麻絹等ヲ紡績スル事業ノ創立ヲ
云フナリ而シテ其製造機械ノ進歩改良シタルヤ一千七百六十
七年ニ於テ「ハルグリーブス」氏初テ紡績機械ヲ創製セリ一千七
百六十九年「アルクライト」氏「輾」ヲ以テ紡績スル方法ヲ知り初
テ其紡績管業免許ヲ得タリ繼テ一千七百七十四年「ドクトル」カ
「トライト」氏木挺カ織機ヲ發明ス同年ヨリ二年ヲ繼テ「サムエ
ルグロムトン」氏又タ一ノ紡綿機械ヲ發明セリ吁此ノ諸發明皆
ナ悉ク人学ヲ省カサルモノナシ然リ而シテ右諸發明ノ内ニ一
千七百八十二年管業特権ヲ得タル「ワット」氏ノ完全ナル蒸氣機関

ヲ以テ第一トス此レ等ノ諸發明ノ第一ノ成果ハ則テ英國製造
事業ニ於テ擅場スルニ至レリ蓋シ若シ此ノ新發明事業ヲシテ
昔時ノ人智未開ノ世ニ出テシメハ人々必ラス之レヲ怪視シテ
魔法妖術ノ所為トナスヤモ未タ知ルヘカラサルナリ而シテ當
時此ノ新發明ノ出テタル初ニ於ケルヤ人々ノ此ニ付テ見ル所
考フル所ハ果シテ真正ノ所見所考ナリシヤ否ラサルヤニ関シ
テ余輩所論アリト雖氏此レ後文ニ讓ルヘシ夫レ新發明ノ機
械タルヤ紙幣ト齊シク其創立ノ始メニ當テ既ニ公益ヲ生スヘ
キモノナレカ故ニ余輩望ムラクハ將來猶ホ無限ノ福祉ヲ世ニ
生メンコトヲ而シテ其必ラス余輩ノ望ミ負カサルハ又タ信シテ
疑ハサル所ナリ故ニ余ハ機械ヲ使用スレハ必ラス從テ人民邪
惡貧困ニナルヘシト云フノ理ハ之レナキヲ知ル又タ棉花製造
所ニ使役スル男女幼童ハ必ラス他所ニ使役スル男女幼童ノ如

ク幸福ナラス誠実ナラスト云フ理アルヲ見ス蓋シ其事業ヲ實
行スルニ苟モ適當ノ規則ヲ設ケ萬事其宜ヲ制セハ萬々此ノ理
ナキヲ知ルナリ且ツ實際ヲ觀察スルモ當時適當ノ規則アリテ
萬事ヲ管理シ勞役者ハ十分ノ俸給ヲ得テ其幸福少シモ他業ノ
勞役者ニ異ナルナキヲ知ルナリ我々國大製造^所於テ惡弊ナキ
ヲ保クサレハ是レ固ヨリ機械ノ罪ニ非サルナリ收税ノ弊ナリ
夫レ新發明ノ機械タルヤ其工事ヲ為スニハ誠ニ便ナレハ收税
ノ禍害ヲ防過^ススルハ其能ハサル所ナレハナリ蓋シ收税ノ大ナ
ルトキ傭主必ラス勞役者ノ給料ヲ減縮シ非常ニ勞作ノ時間ヲ
伸長セサルヲ得ス然ルハ其影響到底勞役者ニ及フベキナリ
故ニ此收税ヨリ生スル禍害ヲ以テ機械ニ歸スルハ抑モ之レヲ
愚ト云ハサルヲ得ス蒸氣機關ノ勞役者ノ貧富邪正ニ関セサル
ハ猶鋤ノ農夫ノ貧富邪正ニ係ラサルカ如キナリ「ガラスゴ」及

ビ「マンチエスタ」ノ如キ大製造所ニ流行スル惡弊汚行ハ國內ノ
大都府都テ皆ナ然ラサルハナシ特リ製造事業ヲ起ス所ノ之然
ルニアラサルナリ
學術巧藝大ニ開進シ製造機械ノ發明アリテ既ニ製造事業非常
ニ振興スト雖氏收税ハ益々増進スルカ故ニ從テ其融通ノ為メ
通貨ノ額數ヲ増加セサルヲ得サル情勢ニ至レリ此ニ於テ又タ
一種ノ營業者アリテ社會ニ顯ハレタリ此ノ營業者ハ則チ是レ
ヨリ先キ全クナキニシモアラサルヘシト雖氏尚ホ微々トシテ
論スルニ足ラサリシカ今マ既ニ財政ノ歴史ニ記述セサルヲ得
サルニ至レリ抑モ此ノ營業者ノ業トスル所ハ則チ自カラ紙幣
ヲ發行シ地方銀行者ト稱スルモノナリ而シテ該營業者ハ一千
六百八十八年大改革以後殆シト一百年間ハ尚ホ世間ニ顯レシ
シテ其數ヲ知ルヘキ記録ノアラサルノミナラス其果シテ既ニ

其時間ニ存セシモノナルヲ否ラサルヤ今日ニ徴スヘキ記録
ト雖氏猶ホ且ツ余輩ノ知ラサル所ナリ蓋シ該管業者ニ関スル
官録ノ今日ニ徴スヘキモノナキヲ見レハ一千六百八十八年大
改革後政府久シク其事業ノ微小ナルヲ以テ之レニ注意セサリ
シヤ知ルヘキナリ一千七百七十五年「ジョージ三世」ノ法令ニ於テ
地方銀行者銘面二十志以下ノ紙幣ヲ發行スルヲ禁止スルモノ
アルヲ見ル是レ當時既ニ該管業者ノ存在スルヲ徴スヘキ踪跡ノ
一大旧典ナリ其後二年ヲ經テ政府法令ヲ以テ一地方銀行者ノ
發行紙幣最下ノ銘面高ヲ五封度ト確定セリ又夕英國銀行事業
特權免許ノ内ニ英國銀行ノ外ニハ紙幣ヲ發行スル銀行ハ皆ナ
其杜莫六人ヨリ多カルヘウラスト云フ條目アリ此ノ條例ノ制
限ニ拘ハラヌ一千七百九十三年ニ至テハ地方銀行者既ニ大ニ
繁生シ社會上著シク盛大ナル一種ノ管業者トナレリ其個數ハ

詳ニ之レヲ知り難シト雖氏殆シトニ百個ノ銀行ヲ組成スヘキ
人算ナルベシト信スルナリ該銀行者ノ惹起シタル大結果ニ付
テハ余輩之レヲ後文ニ開陳スヘシ
余輩ハ今此ノ章ヲ終ハルニ當テ一千七百九十三年ノ重要ノ時
代ニ至ル迄ノ政府既空債ノ額數ヲ記スルヲ以テ至當ト信スル
ナリ乃チ米國戰爭後ヨリ四百萬封度餘ノ減額アリシヲ見ル此
減少高タルマ前年「ベルハム」氏ノ償還シタル額數ニ比スレハ稍
ヤ減差スト雖氏全ク是レ歳費ヲ減シタルヨリ生スル歳入ノ餘
贏ヲ以テ償還シタルモノナリ而シテ「ベルハム」氏ノ國債ヲ減シ
タルハ特リ歳入ノ餘贏ヲ以テ償還シタルノミナラス金利下落
ノ如キ偶然非常ノ好運ヨリ生ヤシ成果ナリ且ツ時ノ難易ヲ比
スレハ財政ノ困難今回ヲ以テ甚シトス其國難ノ時ニ於テ此ノ
減額ヲ為シタルハ又夕之レヲ非常ノ功績ト云フヘシ即チ其減

少ノ額數ハ尤ノ如シ

元 金

封 度

利 息

封 度

米國戰爭ノ終末ニ於ケル債額

二五七、二一三、〇四三

九、六六九、四三五

平時ノ償還・金額

四、七五一、二六一

一、四三、五六九

一千七百九十三年ニ於ケル金額

二五二、四六一、七八二

九、五二五、八六六

右ニ記スル所ノモノハ則チ一千七百九十三年重要ノ時代ニ於ケル國債ノ額數ナリ夫レ此ノ如キ重大ノ重荷アリテ既ニ民ノ膏血ヲ絞リ又タ濟貧割前錢漸次ニ増進シ其勢駭々乎トシテ慘法酷令ニアラサル外ハ決シテ一日モ猶豫セサル有様ナリ一千七百八十三年ヨリ一千七百九十三年迄平均毎年殆ト二百二十萬封度ニ當レリ究民ノ増加スルニ從テ罪惡日ニ月ニ增長スルヲ見ル此時ニ當テ教育法アルモ政之レヲ訓誡スル能ハ

ス又タ寺院アリ教導宗徒アルモ敢テ之ヲ善道ニ化スル能ハス徒ニ無用ノ長物タルヲ見ルノミ余輩ハ此ノ如ク一千七百九十三年ノ重要ナル時代迄ノ財政ヲ詳論シ今佛國改革ノ一大悲劇ヲ奏スヘキ場合ニ到レハ此章ヲ此處ニ終了スルヲ以テ適當ナリト信スルナリ

第六卷終

第七章

佛國大變革、初起。其原因。英國貴族及僧侶ノ恐慌。貴族僧侶人民ニ控訴ス。民黨王黨ノ和親聯合。一千七百九十三年「ボット」氏已ムヲ得ス。佛國ニ向テ宣戰ス。資本ノ缺乏恐慌及大破産。ボット氏佛國「アツシニヤ」紙幣ヲ質造シテ其流通ヲ滅却ス。五封度紙幣ノ發行。佛國共和黨ノ成功。メイソン氏人權論。同氏佛國々會ノ議員トナル。ボット氏二萬封度ヲ商人ニ貸與ス。メイソン氏英國銀行ノ開店ヲ先言ス。佛兵侵入ノ恐怖。英國銀行ニ於ケル恐慌及ヒ取り付ケ群集。一千七百九十七年二月二十七日英國銀行正貨拂ヲ停止ス。銀行正貨拂停止條例。銀行密設委員。紙幣ノ漸勢。一千七百九十七年ニ於ケル國債ノ額數。

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

英國ノ姦相「ロルド、グー」ト氏無道ノ政策ヲ米國殖民ニ施シ其自由ヲ剝奪セント企圖シ續テ「ロルド、ル」ス氏其政策ヲ實施セシニ由リ米國殖民其抑壓ニ對^堪ヘス終ニ義兵ヲ起シ英國ニ抗敵セシ時ニ當テ佛國政府ハ暴ニ英國カ佛領「カナダ」ヲ侵略シタルヲ憤懣シ其復讐ノ機會ヲ待居シカ故ニ「ワシントン」^ア「ダムス」^セ「エルソ」^ン「ベイ」^ン「フランクリン」及ヒ其他ノ國士義人ト從親シ「ロチヤム」^ビ「ユ」[」]及「ラフ」^エ「ット」ヲ將トシテ精兵ヲ出シ米民ヲ扶ケテ英國君主大臣、苛虐ナル羈絆ヲ脱シ自由ノ氣運ヲ開ラカシメタルハ是レ余輩ノ前章既ニ陳述シタル所ナリ抑モ佛國ノ此舉タルヤ大ニ英兵ヲ破リ其平生ノ仇讎ニ報シ得テ快ト稱スヘキカ如シト雖モ之レカ為メ終ニ大害ヲ其佛國ニ遺セリ是レ猶ホ蜜蜂ノ物ヲ刺シテ自カラ命ヲ失フト何ソノ擇ハン夫レ佛兵ノ軍ニ北米ニ勝テ凱旋スルヤ皆ナ桂冠ヲ戴キ戰勝ノ榮譽ヲ負ヒ

意氣揚々トシテ自得自任ノ精神殺伐ノ氣象盛シニ而シテ共和政治ノ說ニ感染スルコト最モ大ナリ而シテ當時佛國ノ人情既ニ動キ共和政治ヲ慕フ氣風ヲ醸成シタリシヲ以テ該佛兵ノ米國ヨリ歸リ共和政治ノ種子ヲ蒔クニハ恰モ既ニ耕耘ヲ行ヒ肥料ヲ施シタル田畝ナルカ如キ形勢ナリシ蓋シ當時ノ情況ヲ觀察スルニ宦豎貴族政權ヲ掌握セリ而シテ其財政ノ如キハ當時既ニ「路易十四世十五世」ノ浪費ヨリシテ國債非常ニ累積シ為ニ國帑窮乏政府其財政ニ困ミ窮迫ノ極政綱尽ク痿靡シ國勢振ハス殆ント政機ノ運動ヲ止ムルニ至レリ而シテ當時ノ君主「路易十六世」仁弱ニシテ万事皆ナ后「マリー、アントワネット」ノ指圖ニ從ヘリ后ハ性姦惡ニシテ其行狀放蕩奢侈ナリ而シテ此ノ后ハ又タ嬖豎多ク其左右ニアリテ之レカ為ニ制肘セラレ、所トナレリ此ノ時ニ際シテ學士論者既ニ噉々共和ヲ説キ自由ヲ論シ各種

ノ出板書類一トシテ共和同治ノ理論ヲ説カサルモノナシ而シテ其出板ノ書類タルヤ條例アリテ之レヲ制スト雖モ皆ナ其名ヲ理學ニ借リ其体ヲ理學ニ假リ以テ立論スルカ故ニ政府コレヲ如何トモスル能ハサルナリ元來佛國民ハ天性輕躁ニシテ意思極メテ變シ易ク當時既ニ聖制政府ヲ顛覆シ社會ヲ一變スルノ念慮盛ナリシ所ナルヲ以テ此ノ如キ著述出板物ノ其間ニ流布シ益々之レヲ煽動スルコトアルハ固ヨリ當然ノ理ナリ夫レ此ノ如キ種子ヲ蒔キタル時ハ復タ必ラス之レヲ秋收スルノ時期アラサルヲ得ス古諺ニ云ク風ヲ蒔クハ則チ旋風ヲ收穫スベシト是ノ故ニ義士「ラ、フエツト」氏佛兵ヲ率ヒテ「ニューウヨルク」ヨリ佛國ニ歸リ變革ノ導火ニ火ヲ點シタルニヨリ忽チ全國噉々噴々トシテ共和制度ヲ要請スルニ至レリ此ノ時ニ當テ專制ナル老衰政府ハ前代ヨリ積累シタリシ公債ノ重量大ニシテ恰

モ食ニ過キタル蟒蛇ノ如ク總身麻痺シ殆ント自動スル能ハス之レニ反シテ佛國民ハ氣力大ニ振興發揚シ各人皆ナ矛鎗ヲ預備シ緩急直ニ集會シ事ヲ舉ント企テタリシカ終ニ久シカラスシテ壞裂四出シ國會率先シテ之レカ先導ヲナシ人民此レニ續ヒテ鯨波ヲ舉ケ大變革ノ端ヲ開ケリ而シテ「フランクリン」ノ一語果斷ト云フハ變革黨ノ夜號ノ語トナリ「バスタイル」城(牢獄)ノ名ヲ壞崩シ三色ノ旌旗天ニ漲キリ恰モ暴風雨ニ於ケル怪雲妖星ノ如ク而シテ此ノ國內騷亂霹靂電光帝ノミナラサルノ際終ニ古今未曾有ノ大變革ヲ惹起セリ其大變革タルヤ猶ホ暗夜ニ於ケル熾火山ノ如ク其閃光遠近ニ爛々トシテ各國恐怖シ各人其旧夢ヲ驚覺セリ

久シク壓制ニ困ミシ佛民ノ大變亂ヲ起スヲ聞クヤ英國ノ貴族ハ大ニ恐怖シ騷擾シテ措カサルナリ是ヨリ先キ佛民ノ初テ民

權自由ヲ唱フル時ニ於テハ英國ノ民黨中真ニ之レヲ喝采稱讚
セシモノアリシカ、又シカラスレテ曩ノ稱讚セシモノ却テ疾視
ノ念ヲ起セリ蓋シ變亂ノ火焰益々大ニ佛國ニ漲キルニ從テ纒
ニ一綫水ノ海峡ヲ隔テタル對岸近接ナル英國ノ貴族ハ大ニ畏
縮震駭シテ、アロキスマス、ウカレゴシ、ウカレゴシ近火ノ義ノ字
英國議院ノ壁ニ佛國變革ノ火焰ヲ以テ寫出セラル、モノ、如
シ蓋シ延燒ノ災近キニ在ルヲ恐ル、ナリ、ウカレゴシハ古昔小
亞細亞ノ下ロイ府人ナル、ウカレゴシト云フ人ノ家ニシテ近家
失火ノ爲ニ累燒セシ家ナリ蓋シ近火ヲ恐ル、ハ謂ナリ羅馬ノ
詩人カピルギル氏ノ古詩ニ出ツ此ニ於テ民黨兵ヲ擧テ下院ハ
議員ブルグ氏上院ハ議員フッツウナリ、アム氏ヲ將トシ王黨ヲ
懲憑シ協力シテ以テ佛國共和政府ニ向テ戰ヲ開カン、フヲ勉メ
タリ是レ佛ノ共和黨路馬十六世ヲ弑シ大逆ヲ恣行シテ忌憚ス

ル所ナリ政綱ヲ壞乱シ慘狀ヲ極ムルヨリ終ニ此ノ擧ヲ企ツル
ニ至レリ而シテ英人ハ益々周章シ稍ヤ上等社會ニ列スル人々
ハ皆ナ變亂ノ將ニ壞裂セントスルノ思ヲナシ恐怖戰慄置ク能
ハス上院問罪ノ征行ヲ發言シ下院コレニ應シテ起リ繼テ僧侶
モ亦タ之レニ應シタリ而シテ此擧タルヤ實ニ十字軍ノ形狀ナ
ルカ如キ企圖ナルハ奇中ノ奇ト云ハサルヲ得サルナリ夫レ英
國貴族ノ當時佛國ノ變亂ニ付テ恐怖戰慄シタルハ固ヨリ怪ム
ニ足ラス蓋シ此ノ時英國施政上ニ於テ人民自由ノ伸暢セサル
ヘカラサルモノト横害ノ改正セサルヘカラサルモノアリテ國
中憤懣ヲ抱クモノ假令数百万人ノ多キニ至ラサルモ中等社會
ニ列スル人々ノ中ニ事物ノ改良ヲ熱望スルモノ亦タ尠ナカラ
スシテ佛國ニ變亂アルカ爲メ益々其希望心ヲ獎勵スルコトア
ルハ貴族等ノ能ク暗知スル所ナレハ其恐怖スルモノ亦タ宜ナリ

然リト雖モ當時僧侶ノ情况ハ大ニ之レト異ナレリ抑モ暴王
シリハ世カ羅馬教會ノ財産ヲ掠奪シタリシ時代ヨリ新教僧
侶ハ極メテ旧教ヲ歴訛シ其不幸ヲ好ムヲ以テ其政畧トシ羅馬
教皇ヲ字シテ耶蘇教敵ト言ヒ其教法ヲ以テ正教ニ敵スル邪教
ト見做シタルカ如シ又夕羅馬教會ヲ字シテ聖徒ハ血ニ酔フタ
ルコトビロニノ紅衣ノ娼妓ナリト誹謗セリ聖書約翰黙示録第十
七章ニ云ク我レ天使ニ從テ曠野ニ至リ上帝ノ大娼妓ヲ裁判ス
ルヲ觀ルニ其娼妓タルヤ紅衣ヲ着シ絳獸ニ坐シ其前額ニ地上
諸惡諸淫ノ母トビロジト大書セラレ且ツ聖徒ハ血ヲ飲マシメ
ラレ大ニ酔フタリ云云蓋シ淫惡無道善人ヲ害シ惡人ヲ好ミシ
社會ノ人情風俗ヲ壞敗スルモノハ必ラス天誅ヲ免カレス死シ
テ後キ天帝ノ裁判ヲ受クルニ當テ其害シタリシ善人ノ血ヲ飲
マシメラルカ如キ責ヲ免カル能ハサルヲ云フナリ其詳細

ハ聖書ヲ視ルヘシ之レヲ約言スレハ羅馬教ノ毒惡ナルハ公然
タル邪教ニ越ユルコト遠ク惡逆無道ノ父母ニシテ苟モ善人タ
ルモノ、奉スヘキ教ニアラストセリ此ノ情况ニ據テ觀察スル
片ハ若シ佛國共和黨ノ其旧教會ノ財産ヲ掠奪シ其僧侶ヲ放逐
スルカ如キコトアラハ英國ノ僧侶ハ假令其暴挙ヲ稱讚スルコ
トナキモ必ラス之レヲ非難セサルベシト當時ノ人民ハ信シタ
ルナルヘシ然ルニ實際ニ於テハ此レト反對シ英國ノ僧侶ハ佛
國共和黨ニ向テ開戦ヲ主唱スルモノ、巨魁トナリシハ實ニ不
思儀ト云ハサルヲ得シヤ而シテ當時英國ノ僧侶講坐ニ登レハ
必ラス皆ナ喋々法皇ノ十分一稅及ヒ其所有地ヲ剝奪スルハ聖
物ヲ瀆奪スルノ罪ナリヲ説キ紅衣娼妓ノ夜會ヲ讚笑スルハ上
帝ヲ冒瀆スル言語ニシテ其罪輕カラサルヲ論シ聖徒ハ血ヲ飲
マシメラルヘキ人ハ其歎共和黨ノ害ヲ避テ英國ニ來ルモノ

ハ盡ク任身傳道士ト尊重シテ之レヲ保庇セリ夫レ僧侶ノ此ノ如キ説教ト舉動ヲ為シタルヤ智者學士ニ影響スル固ヨリ些少ナリト雖モ無智無學ノ人民ニ及ホシタルヤ大ナリ而シテ英人ハ皆ナ忽チ佛國人民ヲ以テ連鎖ヲ脱セシ惡鬼ノ如ク恐怖嫌惡スルニ至レリ然リ而シテ人或ハ「シヤコビ」劇烈改革黨ヲ云フ黨ノ説ヲ和シ君主王位相續ノ神統權ヲ私議スルモノアレハ其害ヲ蒙ムルニ至レリ是レ猶ホ終ニ數年前即チ一千六百八十八年ニ於ケル民黨其自利心ヨリ起シタル大變革ノ時ニ當テ其大變革ノ非擧ヲ議シ「スチユアル」家ヲ復セントセシモノ、害ヲ蒙ムリタルカ如クナリシハ復タ奇ナラスヤ

此ノ時ニ當テ我カ英國ノ宰相「ト」氏ハ右ノ如キ英國人ノ狂暴暗愚ノ氣勢ニ抗シ智ヲ究メカラ盡シテ開戦ヲ拒ミ佛人ヲシテ其為ス所ニ任シ局外中立防已主義ヲ主張セラレタルハ余輩

ノ信シテ疑ハサル所ナリ然リト雖モ惜哉同氏國是ヲ贊成輔翼スルモノハ下院ニ於テ「リヤ」レス、セームス、フロック、ス、氏等數人ト中等社會ニ數人アルノミニシテ其他ハ一人モ之レヲ扶クルモノナカリシハ歎スヘキニアラスヤ前代經驗ノ龜鑑ハ全ク風颯ニ委セリ國債ノ非常ニ累積シ財政既ニ困迫スルモ之レヲ敢テ顧ミテ而シテ問フモノナク唯タ囂々噴々一戰以テ萬害ヲ調理スルキヲ論セリ茲ニ至リテ「ロツト」氏復タ此ノ論勢ニ抗スル能ハス人民狂乱ノ氣勢ニ撼カサシ識者ノ抗論スルモノアルモ其勢力ヲ微ナルヲ以テ之レニ勝ツト能ハス已ムヲ得スシテ終ニ佛國ニ向テ開戦ヲ宣告セリ實ニ一千七百九十三年ノ春ナリ

交戦ノ初ハ此ノ如クハ皆ナ勇進興起セシト雖モ既ニ「ル」ビコシ「伊太利國境ノ小河ニシテ昔「ユ」リアス、シ「サ」ル「伊國ニ侵入セ

シキニ當テ談河ヲ渡リシハ其征行ノ第一歩タリ故ニ人事ヲ起
 スニ當テ其實行ヲ決スルヲ謂テ「ビコン」ヲ渡ルト云フ蓋シ暗
 ニ開戦ノ決議ヲ行ハリテ渡リ重大ノ債ヲ負ヒナカラ更ニ粗
 忽ノ戦争ヲ開キ騎兵ノ勢復タ止ムヘカラサルニ至テ初テ忽チ
 民心ニ非常ノ反動カヲ惹起シ開戦ヲ拒ミシ人々ハ勿論之レヲ
 黙許ニ付シタル輩多ク其戦争ノ成果如何ヲ恐怖シ從テ自カラ
 防已ノ策ヲ為スニ至ル此ニ於テ貿易上忽チ恐慌ヲ生シ同年内
 數百千ノ破産アリシヲ見ル是レ當時未曾有ノ大破産ナリ而シ
 テ當時設立セル地方銀行殆ント其三分ノ一ハ其紙幣交換ヲ停
 止セリ夫レ破産タルヤ往古英國ニ於テハ余輩其有無ヲ知ラズ
 ト雖モ紙幣發行國債募集ノ事アリシ時ヨリ以表既ニ其數ノ漸
 々増加シタルヲ見ルナリ乃チ「ガゼット」新聞ニ記セシ所ヲ見レ
 ハ今回ノ破産ヲ以テ最モ大ナルモノトス又タ當時紙幣交換ヲ

一時停止シタル地方銀行ノ數ハ「チャルメル」氏ハ七十一ナリ
 ト云フト雖モ是レ銀行ノ分局ヲ合セテ計算シタルモノナリト
 信ス又タ此ノ如ク古昔ニ於テ毎歲ノ破産數ヲ精密ニ知ルハ容
 易ナラサルナリ且ツ余ノ調査シタル破産比較表ノ如キ固ヨリ
 少ナシトセス而シテ其計算數著シキ差異ナキモ多少ノ不同ア
 ルヲ見ル左ノ破産比較表ハ重ニ「ガ」¹、「ジ」²、「シ」³、「ク」⁴、「レ」⁵、「イ」⁶、「ル」⁷氏ノ
 歲入⁸「ハ」ヨリ拔萃セシモノニシテ較ヤ真ニ近シト信スルナリ且
 ツ此ノ表ニ據テ余ハ前既ニ開陳シタル事實即チ破産國債及
 紙幣ハ必ラス共ニ並進並増スルモノナルヲ徴スルニ充分ナル
 ヲ知ルナリ

一千七百年
 年紀

表

破産數

一千七百五十二年
一千七百五十三年
一千七百五十四年
一千七百五十五年
一千七百五十六年
一千七百五十七年
一千七百五十八年
一千七百五十九年
一千七百六十年
一千七百六十一年
一千七百六十二年
一千七百六十三年
一千七百六十四年

一五三
二四二
二三八
二一三
二七九
二七四
三一五
二五四
二二一
一八二
二三〇
二四三
三二二

一千七百一十一年
一千七百一十二年
一千七百一十三年
一千七百一十四年
一千七百一十五年
一千七百一十六年
一千七百一十七年
一千七百一十八年
一千七百一十九年
一千七百二十年
一千七百二十一年
一千七百二十二年
一千七百二十三年
一千七百二十四年
一千七百二十五年
一千七百二十六年
一千七百二十七年
一千七百二十八年
一千七百二十九年
一千七百三十年

一七二
一六九
九一
一三〇
一五九
二〇〇
一九七
四四六
四一六
一七三
二〇〇
三九
三八

一千七百六十五年	二三九
一千七百六十六年	三四二
一千七百六十七年	三六〇
一千七百六十八年	三五一
一千七百六十九年	三四四
一千七百七十年	三九七
一千七百七十一年	四三三
一千七百七十二年	五二三
一千七百七十三年	五〇七
一千七百七十四年	三三七
一千七百七十五年	三五〇
一千七百七十六年	四三五
一千七百七十七年	五三五

一千七百七十八年	六三六
一千七百七十九年	五二二
一千七百八十年	四五八
一千七百八十一年	四五八
一千七百八十二年	五五八
一千七百八十三年	五三二
一千七百八十四年	五二一
一千七百八十五年	五〇二
一千七百八十六年	五一〇
一千七百八十七年	五〇九
一千七百八十八年	七〇七
一千七百八十九年	五〇二
一千七百九十年	五八五

一千七百九十一年	五八三
一千七百九十二年	六三六
一千七百九十三年	一、八〇二
一千七百九十四年	八一六
一千七百九十五年	七〇八
一千七百九十六年	七六〇
一千七百九十七年	八六九

此表ニ據テ見ルキハ一千七百九十三年狂暴十字軍ノ征行ヨリ
 貿易上ノ恐慌騷擾ヲ惹起シ為ニ同年破産人ノ負數前年ノ三倍
 ニ達セリ而シテ一時閉店セシ銀行七十ノ内二十六ハ即チ破
 産ト決シ而シテ自餘ノ銀行ハ或ハ決算閉店ニ止マラサルヲ得
 サルモノアリ或ハ再ヒ其事業ヲ管ナムヲ得ルモノアリ此ノ時
 又タコンソルス証券(三分年利ノ金貨)ヲ以テ拂フヘキモノノ

價直大ニ下落セリ是レ亦タ以テ我カ國マサニ千尋ノ懸岸ニ臨
 マントスルカ如キ時ニ於テ人心ノ恐怖疑惑ノ大ナルヲ表証ス
 ルニ足ルナリ蓋シ一千七百九十二年ノ秋ニ於テ三分年利ナル
 コシソルス証券ハ其價直九割二分ナリシカ同年ノ十二月ニ至
 リ大抵事開戦ニ決シタルカ故ニ忽チ下落シテ七割四分トナリ
 翌一千七百九十三年二月ニ至リ七割二分ニ下落シ其月ヨリ數
 月ノ内頻リニ下落シテ二割トナルニ至レリ夫レ此ノ如ク下落
 ノ速ニシテ且ツ大ナルモノハ蓋シ當時民心動搖ノ時ニ際シ平
 素談國債証券ヲ以テ博奕ノ業ヲ試ムル投機者流詭術ヲ逞シ種
 タノ流言風説ヲ構造シ談証券ハ萬世不易ノ財産ニアラスシテ
 其廢止ノ變且ツ近キニ在ルヘシト云ヒ益々人心ノ疑惑ヲ増シ
 タルニ原因スルヤ夫レ明ラカナリ
 英國ノ宰相ピット氏ハ從來非戰中立節儉ヲ執テ國是トセシカ

此ノ時ニ至リ其意見ニ反シ已ムヲ得スシテ歐洲諸国ノ怨恨恐
怖シタル君主ト聯合シ佛國共和黨ニ向テ戰ヲ開ケリ此ノ時ニ
當リ敵味方共ニ佛國ノ防禦ノ備ナキヲ以テ其改革黨忽チ外國
聯軍進撃ノ為ニ破ラル、ナルヘシト信セリ蓋シ英國ニ於テハ
貴族僧侶等恰モ狂乱ノ如クニシテ王位法教ノ利害ニ於テ直接
ニ關係セサル佛國ヲ敵視シテ之レヲ滅却セント勉タリ且ツ君
主ハ實ニ一千七百八十八年九月ヨリ同シク八十九年ノ春迄狂
ヲ病ミタリシカ今ヤ其病新タニ瘥タレキ施政其當ヲ得ヌ就中
此舉ニ於テハ自カラ百方カヲ盡シ英佛兩國ノ間ニ激戰ヲ開キ
雌雄ヲ決セント欲セリ而シテ狂愚卑劣ノ舉動固ヨリ少ナシト
セス其一例ヲ舉レハ彼ノ邪智姦譎ナルブルク氏ノ征佛論ヲ聽
キ自カラ容ヲ動カシテ大ニ之レヲ稱讚シタリ此時ニ當テ始終
屈セス開戰ヲ抗拒セシモノハフタクス氏及ヒ其他二三ノ識者

ニ止マレリ其ブルク氏ノ如キハ元ト非戰黨ナリシカ其黨論ノ
衰微スルヲ見テ忽チ持論ヲ変シ開戰黨トナリピット氏ノ旗
ニ屬シ一年五千封度ノ年俸ヲ受ケタル人ナリ然リト雖ピット
氏ノ或ハ勝利ヲ万一ニ依頼スル所ノモノハ則チ佛國當時財政
ノ困迫ニ從テ兵隊ノ不備糧食ノ缺乏スルアラシト是ナリ蓋シ
佛國ノ兵隊タル一時嘯集ノ兵ニシテ行軍必用ノ日常器具ト雖
モ備ハラス甚シキニ至リテハ鞋襪ヲ穿タスシテ雪中ヲ歩行ス
ルモノアリ實ニ之レヲ野武士ト言フヘクシテ兵隊ト稱シ難キ
カ如シ故ニピット氏ノ推量スルカ如ク當時佛國共和政府ノ財
政ハ非常ニ困迫シタリシヤ明白ニシテ疑フヘカラナルナリ借
テ佛國共和政府ハ其國內騷乱ノ際ニ於テ正貨ニテハ巨額ノ稅
ヲ徵集スル能ハサルヲ知リ教會及ヒ逃走セシ貴族ノ所有地ヲ
剝奪シ其新公有地ヲ抵當トシテ紙幣ヲ發行シ之レヲ名テ讓渡

証券ト稱セリ蓋シ政府ヨリ該紙幣ヲ有スル人々ニ右公有地ノ
私有權ヲ讓渡シタルノ義ナリ此紙幣ノ抵當タル實際ヲ離テ考
ルルハ古今未曾有ノ良抵當ニシテ完璧ノ証券ナルカ如シ然リ
ト雖モ填普ノ兵既ニ佛境ニ侵入セントシタル該証券ハ忽チ其
信ヲ失シタリ繼テ英國ノ填普ト聯合シ兵ヲ出シタルハ其價
直ノ下落益々甚シ然ルニ佛國ハ封境益々多事ニシテ軍費益々
大ナルヲ以テ其用度ヲ支ヘンカ為メ右巨額ノ証券ヲ發行シ從
テ其價直ノ下落シタルヨリ物價非常ニ騰貴シ以テ恐慌ノ災害
ヲ招キ該証券ノ信用全ク地ニ落タリ是レ此ノ証券ノ此極ニ至
ル所以ノモノハ蓋シピット氏ノ籌策ニ出ツルモノナリ此ノ時
ニ當テ佛國共和政治ノ總領官「ロベスピエール」及ヒ國會ハ條例ヲ
定メ該証券ト正貨ノ間ニ差ヲ生スルモノハ斬ニ處スヘシト布
告シタリシト雖モ更ニ其効ナク其威嚇ノ成果ハ人ヲシテ益々

正貨ヲ蓄藏セシメタルノミ又タ法令ヲ以テ麵包及ヒ其他日用
品ノ制限價格ヲ定メタリシト雖モ其成果ハ唯々人之レヲ市セ
サルニ至レリ又メ其商品ヲ賣ラサルモノハ叛賊ト同罪ニ處ス
ヘシト公布シタリシニ人皆チ其物品ヲ隱匿セリ之レヲ約言ス
レハ刑臺ノ斬首懼ルヘキモ終ニ輿論ニ勝ツ能ハサルナリ而シ
テ英相「ピット」氏ハ開戦ニ同意セシキ既ニ該証券ヲ贋造シ陰ニ
之レヲ佛國ニ流通セシメ以テ全ク該証券ノ信用ヲ滅却スヘキ
政策ヲ企圖セシカ故ニ後チ機ヲ見テ直チニ之レヲ決行セリ而
シテ其成果ハ則チ該証券ノ價直全ク下落シ廢紙ニ齊シキニ至
レリ此レ等ノ証券ノ今日ニ至ル迄佛國民家ノ壁上ニ附貼スル
アルヲ見ル蓋シ是レ其下落シタリシ當時ノ記念ト為スナリ然
リ而シテ「ピット」氏ノ施シタル政策タルヤ當時コレヲ知ルモノ
ナク適々之レヲ言フモノアルモ人皆チ之レヲ信セス以テ虛談

トセリ或ハ設令實際ニ贋造ノ事實アリシトスルモ全ク一個人ノ奸策ニ出テ政府頭官ノ決シテ與カリ知ル事ニ非ナルヘシトセリ
然リト雖モ其虛談トシテ政府頭官ノ知ラサル事トセシモノハ全ク誤謬ナリシヲ見ル何トナレハ其後チ為換券一個ノ偽造嫌疑ヨリシテ其全額盡ク之レヲ法庭ニ集メテ調査スルニ至レリ而シテ其贋造証券ノ紙ハ政府直接ノ命令ニ據テ「タルハ」府ノ近郊「リ」ングリーノ製紙場ニ於テ製シタルヲ知ルカ故ナリ蓋シタルハ「ム」府ハ倫敦府ヨリ遠隔ノ地ナルヲ以テ贋造ヲ為スニ適當ナリトシテ之レヲ探定シタルモノナリ夫レ此ノ如キ政策ヲ此ノ如ク密ニ成功シタルハ宰相「ト」氏ノ大智力ニアラサレハ能ハサル所ナリ而シテ同氏ニシテ軍陣ノ事ニ短ナルハ實ニ怪シムヘキナリ然リト雖モ金穀ノ大計ヲ画スルニ至リテハ固

ヨリ同氏ノ長スル所ナリ
佛國讓渡証券ノ廢滅ハ則チ「ト」氏政策ノ勝ヲ得タル始メニシテ復タ其終ナリ蓋シ「ト」氏ノ功茲ニ極マリテ是レヨリ衰フルヲ云フナリ抑モ一千七百九十三年戰ヲ開クニ當テヤ人皆ナ以為ラク今回ハ必ラス佛國ニ侵入シ之レヲ分奪スルコトアルヘシト就中「ト」氏ノ如キハ佛國ハ久シカラスシテ歐洲ハ地圖ヨリ削去セラレヘシト公言セリ「ト」氏ハ佛國殆ント破産ノ深淵ニ墜タルモノ、如シト云ヘリ國君ハ僧侶貴族ト共ニ佛國ヲ悔リ弒君政府今マ全ク上帝ノ怒ニ觸レ其神護ヲ失ヘリト公言セリ各人ノ信スル所既ニ此ノ如クナリシト雖モ「ト」氏尚ホ未タ佛國ヲ亡サス氣運成ニ度シ實際ノ事實全ク之レニ及スルニ至レリ蓋シ當時佛國三千餘萬ノ人民ハ其國ノ危急存亡ニ関スル非常ノ場合ニ於テ又タ非常ニ心ヲ苦シメ万死ヲ冒スノ

意ヲ決セシナリ而ルニ英國ニ於ケル右ノ如キ妄想ヲ談論セシ
人々ハ之レヲ知ル能ハサリシナリ然リ而シテ「ブルク」氏ノ歐州
ノ地圖ヨリ削去セラレヘシト云ヒシモ終ニ虚談トナリ僧侶等
ノ上帝ノ怒ニ觸レ天罰ヲ蒙ルヘシト罵リシモ及テ天幸ト變
シタリ而シテ佛國共和黨ハ年齡十六ニ滿タサル少年ノ新徵兵
ニ至ル迄心ヲ合セカヲ極メ進撃憤戰セシヲ以テ填普老練ノ兵
士モ其兵法軍畧ヲ逞スル能ハス終ニ右少年輩ノ為ニ大ニ敗績
セリ茲ニ於テ攻守忽チ其所ヲ換ヘ佛軍進テ其境外ノ國ヲ浸シ
軍費モ之レヲ浸畧ノ國ニ取テ支辨シ自カラ供スルヲ須ヒサル
ニ至レリ此ニ於テ佛國人民ノ恐怖心漸ク消シ較ヤ安穩ノ域ニ
回復セリ從テ曩ニ蓄藏シタル正貨速ニ再ヒ世間ニ出テ彼ノ滅
信讓渡証券ニ代テ流通スルヲ見ルニ至レリ英將「アランス」
「ウ」侯及「ヨ」ク侯ノ如キハ智勇ノ譽レアリテ「巴里」府征伐ノ將帥

ニ撰任セラレシト雖此ノ時既ニ敗績シ和蘭、白耳義、瑞西等モ
亦タ皆ナ佛兵ノ為ニ侵掠セラレ佛軍ノ勢益々盛ニシテ南ハ伊
太利ヲ威嚇シ東ハ「ライ」河ヲ越テ侵入セリ而シテ海軍モ亦タ
大ニ増加シ佛國共和政府ノ威勢全歐州ニ震ヒ而シテ英國ノ侵
凌奪略モ近キニアルカ如クナレハ上下大ニ騷擾セリ就中其侵
入ニ大關係ヲ有スル人々最モ之レヲ信シタリシハ後文ニ據テ
知ルヘキナリ
一千七百九十三年戦争ノ敗績ヨリ後チ宰相「ピット」氏ノ性質全
ク變化シテ放心シタルモノ、如シ頻リニ國債ヲ起シ從テ募レ
ハ從テ之レヲ無謀ノ征行及ヒ同盟連衡ニ浪費濫用セリ而シテ
其征行ノ連衡タルヤ敗スルハ必ラス解散セリ此ノ如クニシテ
益々財政ニ困迫シ曩キニ同氏ノ佛國ノ財政ニ付テ預言シタル
禍言ハ今々其身ニ反射シ破産ノ深淵ニ墜落スヘシト佛國々會

ヲ罵リシモ今ヤ已レノ施ス政策却テ危険ニシテ政府カ深淵ニ
臨ムヤ前日佛國ノ情勢ト異ナラサルナリ而シテ當時連々募債
スルノ成果ハ則チ英國銀行必ラス紙幣ノ發行ヲ増加セサルヲ
得サルニ至レリ而シテ其陸續増加スル紙幣ヲ自由ニ通用セシ
ムニカ為メ先ツ銀行ニ許スニ五封度ノ如キ小額ノ紙幣ヲ發行
スルヲ得ヘキヲ以テセリ此ノ政策タルヤ右小額紙幣發行者或
ハ其發行ヲ懲慥セシ^ハト^ト氏ノ如キハ其結局ノ成果ヲ推量ス
ル能ハサリシモ當時ノ卓見者ハ既ニ之レヲ觀察セリ是レ別人
ニアラス有名ナル^トト^トマス、^ペイ^シ氏ナリ抑モ同氏ハ元來^ホラ^フ緯
匠ナリシカ今ハ則チ佛國ノ收稅官ナリ曩ニ英國戰ヲ米國殖民
ト開キシキニ當テ米國ニ移住シ米國獨立黨ニ屬シ其材力ニ由
テ國會ノ書記者ニ登用セラレ又夕雜誌等ヲ發兌シ大ニ文筆ヲ
揮ヒ自由獨立ノ大義ヲ開陳シ以テ國會ノ成功ヲ助ケタリ繼テ

一千七百八十三年兩國和親ノ後チ英國ニ歸レリ而シテ彼ノ非
戰黨ニ叛テ開戰黨ニ歸シタル愛蘭人^デル^ク氏書ヲ著シテ佛國
變革黨ノ舉動ヲ譏諱辨駁シタルヲ見テ同氏乃チ人權論ト題ス
ル論文ヲ著シ以テ^ホ蝶^々人民其政体ヲ撰定スルノ權アルコトヲ
論セリ其影響最モ著シク古來專制暴政ヲ責メタル大攻撃ノ一
ニ居レリ此ニ於テ忽チ政府憤怒シ國体ヲ譏書シ叛乱ヲ煽動ス
ルヲ以テ其罪ヲ問ハントセシカ故ニ其禍ヲ免レンカ為メ竊ニ
佛國ニ逃脫シ而シテ其國會ノ議員ニ撰舉セラレタリ^ペイ^シ氏
曩ニ合衆國ニアリシキニ當テ紙幣ト國債ノ實際ニ於ケル情況
ヲ目撃シ其損害ノ徵候ト理由ヲ解了セシヲ以テ今マ英國小價
格紙幣發行ノ禍害ヲ先言スルヲ得シナリ蓋シ小價格紙幣ノ發
行ハ宰相^ハト^ト氏ヲシテ必ラス過度ノ發行ニ至ラシメ為ニ大
ニ流通紙幣全額ノ價直ヲ下落スヘキヲ先見セリ且ツ之レニ加

テ外ハ以テ外國在陣ノ兵士ニ軍用金ヲ送り又タ其給料ヲ送ラ
サルヲ得ス内ハ以テ益々警戒騷擾ノ為ニ入費ヲ要スルカ故ニ
久シカラスシテ英國銀行ノ準備正貨ハ尽ク濫出シ復タ一片ノ
ギニア^{ギニア}英國古昔貨幣ノ名ヲキニ至ルベキヲ察セリ是レ^レバイン
氏實際ノ經驗ニ由テ固ヨリ能ク其然ルヘキヲ前知スル所ナリ
故ニ英國財政衰頹論ト題スル小雜誌ヲ發兌シ以テ國債政策ヨ
リ將來ニ英國ニ生スヘキ頹壞ヲ論陳シ又タ今マ且ツ來ラント
スル英國銀行ノ困難險害ヲ説キ就中其紙幣久シカラスシテ佛
國讓渡証券ノ如ク必ラス減信ニ至ルヘシト先言セリ而シテ此
ノ雜誌タル一千七百九十六年ニ發兌セリ當時英國ニ於テハ人
皆ナ之レヲ訾笑シ且ツ怒リ^レバイン氏ノ肖像ヲ畫シテ之レヲ火
中ニ燒クニ至レリ然ルニ佛國ニ於テハ右雜誌ノ發兌アリテ變
革黨大ニ勇ヲ鼓シ軍威益々振フ又タ^クラビエル氏計ヲ以テ英

國銀行ノ事業ヲ停止セシメント欲シ其紙幣ニ贋造アルコトヲ
流言シ以テ人心ヲ恐嚇疑惑シ且ツ密使ヲ英國ニ派遣シ寫ニ紙
幣交換ノ總催但テ煽動恣憑シタリシヲ以テ實際上ニ於テハ^レマ
イ^レ氏先言ノ害ヨリモ一層多クノ害ヲ生シタルヤモ未タ知ル
ヘカラサルナリ故ニ雜誌發兌ノ後チ二年ヲ出^ルシテ銀行ニ関
セシ彼ノ先言ノ如ク銀行其事業ヲ停止シ金貸ヲ以テ紙幣ヲ交
換スル能ハサル等都テ違ハナリシナリ
抑モ佛國開戦ノ初ヨリ無數ノ困難叢起シテ宰相^{ビツト}氏ノ困
シム所トナレリ一千七百九十三年戦争ノ破裂ヨリ貿易上ノ恐
慌ニ由テ人人相ヒ危懼シ為ニ此ノ國ノ貿易誌ニ於テ古今未曾
有ノ不景氣ヲ惹起セリ而シテ此ノ困難タルヤ直ニ^{ビツト}氏ノ
頭上ニ落チ處分セサルニ至レリ茲ニ於テ^{ビツト}氏一策ヲ施セ
リ而シテ其策タルヤ世議ヲ免カレサルモノニシテ且ツ有害無

益ノ實例ヲ置キシハ復々得策ニ非サリシナリ。儲テ其策ノ方法
 ハ則チ他ナシ。政府ヨリ金錢ヲ商人ニ貸渡シ。以テ當時ノ商況ヲ
 回復セントノ見込ミナリ。然レモ同氏佛國ト戰ヲ開キシトキ忽チ
 貿易上ノ不景氣ヲ生シタルヲ見テ大ニ恐怖シ。速ニ其勢ヲ支フ
 ルニアラサレハ不測ノ禍ニ陥ルヘシト信シ。終ニ右ノ政策ヲ決
 シ。英國銀行ヨリシテ其貸渡ヲ為スヘキヲ公布セリ。而シテ一千
 七百九十三年租稅院手形發行委員ノ報告ニ據テ同年右
 借用ヲ願ヒシ商人ハ三百三十人ナリ。而シテ其商人ノ借用ヲ
 建議シタル金額ハ三百八十五萬五千六百二十四封度ニ下ラサ
 リシナリ。而シテ借用ヲ願出タル三百三十二人ノ中ニ二百三十
 ハ人。其所願ヲ達シタリ。其貸渡金額ハ則チ左ノ如シ。

無抵當ニテ貸渡シタル金額

二、〇一五、〇〇〇

封度

物品抵當ニテ貸渡シタル金額

合計

二、二〇二、二〇〇

此ノ貸渡金額ハ未タ其返期ニ至ラサルニ盡ク辨償セラレタリ
 然リト雖モ此ノ政策ヨリ將來ニ發生シタル弊害ヲ觀レハ之レ
 ヲ最モ有害無益ノ初例ト言ハサルヲ得ス。
 一千七百九十三年開戰ノ片ニ於ケル初度ノ恐怖警戒ノ影響ハ
 則チ上文ニ記載シタル情勢ニ止マリシト雖モ恐怖警戒偶然施
 政上必須ナル要具ノ一トナリシハ是レ不幸ナルナカラシム。蓋
 シ此ノ時ニ當テ商業貿易ノ道既ニ閉塞シ兵士ノ徵募益々多ク
 頻リニ水夫ヲ取テ公役ニ強使シ債ヲ募集スルヤ年ヲ追テ増加
 シ。民兵ノ軍役法甚ク嚴酷ニシテ軍備令又タ刻烈ナリ。收稅益々
 増加シ。戰鬪ノ情況日ニ利アラス。此ヲ以テ人民既ニ憤懣怨嗟ス
 ルヲ以テ其心ノ分離セシコトヲ恐レ之レニ説クニ大義ヲ以テ

シ衆民ノ千辛萬苦以テ戰ヲ為スモノハ決シテ特リ貴族ヲ保護
シ其惡俗弊風ヲ維持セント欲スルニアラス偏ニ本國ノ存ヲ保
持センカ為ナルコトヲ知ラシメ今マ國ノ獨立其危キ累卵ノ如
ク人民ノ自由國教及ヒ英人ノ稱呼ヲ舉テ悉クシヤコビニス
ルヲセイスムノ一大混亂ノ地即チ無政無法無教ノ乱世ニ陥落ス
ヘキノ危急ナル情勢ヲ論シ以テ民心ヲ收覽喚起シ國難ニ徇ス
ルノ至要ナルヲ諭セリ而シテ當時ノ當局者ハ卑賤愚昧ナル記
者ノ手ヲ借り日ニ新聞雜誌ヲ發兌セシメ喋々右ニ陳述スルカ
如キ國難ヲ説テ人民ノ耳底ニ聳カシ其心ヲ喚起シ一時ハ稍ヤ
目的ヲ達シタルカ如シト雖モ佛軍頻リニ利ヲ得テ其勢益々震
ヒ英倫或ハ愛蘭若シクハ此ノ二島ニ向テ一時ニ侵入スルノ兵
備既ニ現然タルカ如キニ至テ我カ國民ノ周章恐怖ハ復タ區々
新聞雜誌等ヲ以テ虛嚇シ得ヘキ戲劇ノ類ニアラス疑懼騷擾真

ニ全社會ノ頭腦ニ通徹セリ

此ノ時ニ至テ收税ハ益々増加シ民心ハ愈ヨ危懼恟々ノ間ニ際
シベイン氏ノ曩ニ英國財政衰頹論ト題スル論文ヲ出版シ五封
度紙幣發行ノ為ニ必ラス生スヘシト先言シタル其弊害ノ徵候
漸ク發現セントスルヲ見ル一千七百九十六年ヲ終末ニ至リ英
國銀行已ニ正貨ノ缺乏ヲ告ケ始メ慢性ノ病トナリ時ヲ經過ス
ルニ從テ其毒害益々増進スルニ至レリ此レ他ナシ前三年ノ間
ニ施シタル諸政策ノ成果ニ外ナラサルナリ抑モ金銀ノ通例英
國銀行ノ金庫ニ入ル之レヲ買入レテ入ルハニアラスレテ一ハ
收税ニ由テ世間ノ正貨銀行ニ入り而シテ銀行其代リニ恰モ利
潤分配券及ヒ政府債券等如ク其紙幣ヲ以テ拂出ス事ニ由レ
リ而シテ二ハ商人貿易上ノ差額ヲ金銀ニテ外國ヨリ請取ルコ
トヲレハ之レヲ該銀行ニ預ケ置ク事ニ由レリ但シ其預金ニハ

該銀行當ニ手形ヲ振出ス_トアレ_ト變亂、時世ニアラサル外ハ
正貨ニテ交換スルニアラスシテ到底其紙幣ヲ以テ交換スルノ
慣例ナリ英國銀行ノ金庫ニ正貨ノ入ルハ右ノ二路ニ外ナラス
而ルニ收税ノ如キハ銀行紙幣ヲ以テ收ムルヲ得ベク貿易上ノ
差額ノ如キモ亦タ高況ノ盛衰ニ從テ變化スルモノナルカ故ニ
一千七百九十六年ニ至リ「メイニ氏」ノ先言セシ如ク果シテ右正
貨流入ノ二路ハ全ク其功用ヲ失ヒ五封度ノ如キ小額ノ銀行紙
幣流通ノ後ハ收税ノ金額皆ハ銀行紙幣ヲ以テ收メラレ金貨ノ
如キハ其額數ノ多少ヲ問ハス此レヲ得ント欲スルモ容易ナラ
サル所ナリ又、タ紙幣ノ頻リニ其發行ヲ増加スルヨリ物價大ニ
騰貴シ為ニ非常ニ各種物品ノ輸入增長シ從テ貿易ノ權衡ヲ失
ヒ我カ國ニ不利ヲ生シ終ニ金銀塊巨額ノ送金絶テ我カ國ニ入
ル_トナキニ至レリ而シテ人心ノ恐怖疑惑ノ増進スルニ從テ人

民モ亦タ益々金貨ヲ蓄藏セリ此ヲ以テ一千七百九十六年ノ極
未ニ於テ當時其財政ノ情況ヲ知得シタル僅々ノ識者ハ既ニ大
危險ノ極度方ニ近キニアルヲ知了セリ

一千七百九十六年ノ年末數月ノ間講和ノ高議アリシト雖_レ翌
一千七百九十七年ノ始ニ於テ既ニ其高議ノ必ラス成ラスシテ
失敗スヘキヲ知レリ而シテ人心ノ此ノ如ク騷然タルニ又タ一
層民心ヲ煽動激發スル一原因アリ是レ即チ當時賤劣浮薄ノ新
聞紙是ナリ此レ等ノ新聞記者タルヤ固ヨリ更ニ銀行ノ内情ヲ
知ラス當時銀行ノ内情タル至極之レヲ秘シ殆ント其廢業ノ時
ニ至ル迄宰相「トット」氏ト雖_レ之レヲ知ル能ハサリシト云フ公
報確説ヲ得スレテ猥リニ臆測虛大ノ説ヲ為シ益々人心ヲ煽動
シ終ニ全社會ニ一大恐慌ヲ起シ其影響一千七百九十七年一月
ニ於テ「ゴソル」公債証書ハ下落シテ五割四分トナレリ而シテ

人人佛兵侵入ノ説ヲ聞キ恐怖ノ甚シキ此ノ最低ノ價直ニ於テ
スラ猶ホ且ツ其公債證書ヲ賣リ其代價ニ請取シ銀行紙幣ヲ金
貨ニ交換シ以テ佛兵侵入ノトキハ之レヲ蓄藏セント欲シテ為
メニ銀行ニ行キ其交換ヲ請フモノ既ニ多シ而シテ二月ノ初メ
三週間ハ尚ホ人民ノ疑懼騷擾此ニ止マリシカ同月二十一日ニ
至リ佛國海陸ノ船隊既ニ「ベーク」ヘツト岬ノ沖ニ達シタル電
報アリ繼テ二十二日佛兵今マ「ウエール」ニ上陸スルトノ報知
アリテ忽チ驚駭騷擾沸ヲ為シ人皆ナ公債證書ヲ賣リ銀行ニ
走テ紙幣ノ交換ヲ求ムルモノ陸續トシテ群ヲ為セリ而シテ今
ヤ百方恐慌ノ原由ヲ説明シ其恐ルヘキノ實ナキヲ解キ其氣勢
ヲ制セントシタリシモ其時機既ニ去テ復タ寸効ナカリシヲ見
ル
此ノ如キ財政ノ情勢タルハ即チ利害ノ判スル極点ニシテ必ラ

ス速ニ大利ヲ生スルニアラサレハ必ラス大害ヲ生セサルヲ得
サルモノナリ今ヤ公債証書及ヒ紙幣ノ逢遇スル此ノ大危険ノ
極運ハ固ヨリ當然ノ理ニシテ避クベカラサルノ數ナリ之レヲ
約言スレハ公債紙幣ノ政策ハ道理上固ヨリ既ニ此ノ大攻撃ヲ
受クヘキノ定數アリ故ニ該攻撃ノ當局者ニ於ケルヤ抑モ天數
ナレハ人力ノ得テ而シテ之レヲ避クヘカラサルモノナリ又タ
一日ヲモ之レヲ他日ニ延ハスヲ得ヘカラサルモノナリ然リ而
シテ其當局者ノ中宰相「ト」氏ハ其巨魁ニシテ種々ノ謬策ヲ
施シ萬害ノ源ヲ開キシモノナリ夫レ二月二十一日ニ於テ銀行
大危険ノ情況ヲ以テ初テ同氏ニ通知シタリシトキ同氏ハ果シ
テ如何ナル感覺ヲ起シタリシヤ又タ同月二十四日ニ於テ「ゴ
ルド」スミツト及ヒ「エリ」ソ「ン」氏等ヲ「ハムブルグ」ニ遣シ金塊ヲ外
國ニ得ントスルモ時機既ニ去リ銀行ノ命運既ニ盡キ而シテ事

業停止。開店今マ目前ニ来リト報道シタリシトキハ復タ如何ナ
ル。感覺ヲ生シタリシヤ余今マ之ヲ想像スルニ困シムト雖モ
其感覺ハ必ラス印度種屬チエロキ種ノ首長其醉眠ノ醒メシ
片其身ハ獨木舟ニ在テナイヤカラ瀑布ノ箭射ノ大急流中ニ落
チントセシキノ感覺ニ齊シカルヘシト云フモ決シテ誣言ニア
ラサルヘシト信ス而シテ事業停止ナル言語ノ聲音ノ同氏ノ耳
底ニ響徹スルヤ恰モ其命運茲ニ盡キ國家ノ大事茲ニ去ラント
スル無限ノ不幸ヲ傳フル此ノ大瀑布ノ遠響ノ真々タルカ如ク
ナルベシ又タ同氏ハ印度首長ノ如ク其頸ニ酒瓶ヲ掛ケタリシ
ヤ否ラカリシヤハ余輩コレヲ知ル能ハスト雖モ同氏昔日ノ習
慣ヨリ推スルハ恐ラクハ其狀アリシナラント想像スルナリ夫
レ此ノ如ク險害ノ性質ニ至テハ印度人ト異ナルヲナカリシト
雖モ其大危険ニ臨ンテ施シタル其維持ノ方法ハ印度首長ニ勝

ルコト遠シ然レモ是レ又タ他ノ問題ニ屬スルヲ以テ余輩ハ今
マ開陳セントスル本論ノ主義タル事實ヲ後ニシテ他事ヲ論ス
ルヲ為サ、ルヘシ
一千七百九十七年二月二十一日ニ於テ初テ銀行取締役等其内
情ヲ以テ同氏ニ通知セシト余既ニ開示セリ此ノ時ニ當テ
同氏ハ下院ニ於テ演説ヲ為シ人民ノ疑懼騷擾ヲ鎮定セント試
ミ又タ銀行取締役等ヲ懲懲シテ金塊ヲ外國ニ求メント企テタ
リ然レモ二十四日ニ至リ時既ニ後レ其策モ亦タ益ナキヲ通知
セラレ策盡キ計極リ其明日同氏ノ私宅ニ於テ銀行者ノ私會ヲ
開キ其意見ニ據ルノ外ハ施スヘキ方法ナキニ至レリ其明日ハ
即チ二月二十五日土曜日ニ其日終日証券ノ買却金貨ノ銀行
ヨリ濫出スルコト益々増加スルヲ見タリ此ヲ以テ考フルハ
此後ヲ繼テ決行セシ銀行其紙幣ヲ金貨或ハ銀貨ヲ以テ交換ス

ルヲ肯セサル千方盡キタル政策ハ其實既ニ該會議ニ議決シタ
リシヤ明カナリ而シテ右交換拒絶ノ政策ハ内閣議會ハ一制令
ニ由テ認許セラレ之レヲ各テ拒絶令ト云フ蓋シ以來該銀行其
紙幣ヲ金貨或ハ銀貨ヲ以テ交換スルヲ停止セシ制禁ナリ右内
閣議會ノ制令ハ即チ二月二十六日日曜日ヲ以テ調印セラレタ
リ一千七百九十七年二月二十七日月曜日ニ至リテスリドニ
ードルストリートニ於ケル銀行ノ戶外ニ群集シテ其紙幣ノ交
換ヲ催促ニ来タリシモノ塔ノ如ク而シテ始テ一片ノ新告文ヲ
觀タリ是レ則チ尤ニ登錄スル文ニシテ能ク世人ノ知ル所ナリ
抑モ此ノ告文ヲ讀ミ此ノ文ヲ草セシ人ノ情ヲ觀ルニ自カラ愧
報スルノ極多詞ヲ煩ハシ喋々トシテ以來其紙幣ヲ交換スル能
ハサルコトヲ説明スルニ忍ヒサリシモノニ似タリ故ニ内閣議
會ノ制令アリテ此ノ告文ニ附加セラレシニアラサレハ該告文

ハ其交換ヲ停止スルノ義ヲ達スルヲ得而シテ流通セシ其約
束券ヲ正債ニ交換スルニ半クロウシモ猶ホ交換シ能ハスシテ
徒ニ銀行ナル情況ヲ公衆ニ自証スルニ過ナリシナルヘシ其告
文ハ即チ左ノ如シ

昨夜皇帝陛下ノ内閣ヨリ左ニ附載スルカ如キ制令ヲ當銀
行ニ達セラレタリ此ヲ以テ我英國銀行ノ頭取副頭取及ヒ
取締役ハ謹テ銀行株券ノ持主及ヒ一般公衆ニ向テ今當
銀行ハ百事至極富裕盛大ノ情況ニシテ其紙幣ノ安危ニ付
テ固ヨリ疑惑ヲ容ルノ地ナキヲ報告スルヲ以テ其義務
ナリト信ス而シテ取締役ハ貿易上ノ便益ノ為メ從前ノ如
ク相變ラス銀行紙幣以テ仕拂ヒ其通常ノ割引ヲ為スヘ
シ且ツ利息分配金ノ如キモ從前ノ如ク同様ニ處分スヘシ

英國銀行書記

一千七百九十七年二月二十七日

フランシス・マールチン

此ノ奇怪ノ告文ニ添フルニ内閣議會ノ日曜日ノ達令ヲ以テセ
リ其達令ハ則チ以來議院ノ決議ヲ得ルニ至ル迄ハ取締役ニ正
債ヲ出スコトヲ禁令セシモノナリ
右ニ陳述スルカ如ク該月曜日ノ朝ニ於テ國債及ヒ紙幣ノ政策
ハ古今未曾有ノ大危険ニ遭遇セシニ幸ニ其大阨ヲ免カレテ維
持保存スルヲ得タルハ抑モ之レヲ不思義ト云ハサルヲ得ンヤ
地球上何國ヲ問ハス此ノ如ク維持保存スルヲ得タリシモノア
ルヲ聞カサルナリ佛蘭西日耳曼ハ勿論和蘭ト雖モ嘗テ全失敗
ヲ經タリ「モスコビー」ノ鬚奴ノ如キハ其失敗最モ甚シ是レ女帝
「カザリン」統治ノ時ニアリテ同帝ノ親シク目撃セシ所ナリ而シ
テ特リ英國ニ於テハ此ノ如ク大危険ニ遭遇スト雖モ終ニ其政
策ヲ維持スルヲ得テ廢滅ニ歸セサルモノハ蓋シ民情ノ極テ欺

キ易キ所アルト人民皆ナ賣買取引上容易ニ其信ヲ各種証券ニ
置ク風俗アルト新聞雜誌及ヒ議院ノ奸計詭術ヲ盡シテ民心ヲ
愚弄シタルトニ外ナラサルナリ當時「ト」氏及ヒ銀行取締役
ノ如キハ共ニ相ヒ狎謀シテ德義上極惡ニシテ上帝假誓ノ罪ヲ
免レ難キ巧妙ノ虚言忘説ヲ作レリ即チ金銀ヲ以テ其紙幣ヲ交
換スルヲ停止スルハ銀行取締役ノ本意ニアラサレモ政府ノ命
ニ由リ已ムヲ得サルニ出テシコトヲ陳述シ以テ一時ヲ維持セ
リ其際有力者所々ニ會議ヲ開キ皆チ右不換銀行紙幣ニ信ヲ保
チ百般ノ取引仕拂ニ於テ疑念ナク授受スベキコトヲ誓ヒ調印
シテ之レヲ國中ニ布告スルニ至レリ即チ事業ヲ停止シタル月
曜日ノ朝ニ於テ府下ノ豪商「メ」ンシヨシ「ハ」ウス「倫」敦市尹ノ官宅
ヲ云フニ集會シ右銀行紙幣授受通用ヲ誓約スル布告ヲ調印セ
リ繼テ郡縣ノ毎季裁判議會ノ僚衆モ此ノ例ニ倣ヘリ而シテ上

下兩院ノ議員モ多ク其間ニ周旋シテ大ニカヲ添ヘタリ而シテ
「ロツ」氏自カラ其花押ヲ以テ其誓約ノ布告ニ附シタリ吁何ソ
其レ厚顔ナル哉夫レ既ニ此ノ如ク種々ノ會議ヲ開キ此ノ政策
ヲ維持スルノ方畧ヲ施シタル其中ニ就テ最大ノ影響ヲ惹起シ
タルハ銀行株券持主等ノ銀行ニ開キシ會議ノ廣告ヲ以テ第一
トセリ即チ該會議ニ於テ「ロル」ントシ及ヒ「ホ」サンクエツト名ク
ル二人ノ取締役最モ鄭重嚴肅ニ言語ヲ修飾シ報告シテ云ク銀
行取締役策ヲ獻シテ其事業ヲ續クヘキコトヲ懇願セシト雖ヒ
政府之レヲ用ユルナシ云云其策タルヤ實ニ國家ノ盛衰ニ大関
係ヲ有スル一大政策ナリ云云又タ云ク當銀行ハ既ニ富裕盛大
ナルカ故ニ切ニ早ク前日ノ如ク其紙幣ヲ正貨ニ交換スルヲ許
可セラレシコトヲ希望セリ云云然リ而シテ株主等ハ又タ取締
役ノ其意ヲ狂テ内閣ノ制令ニ奉遵シタリシヲ賞シ過半数ノ同

意ニ由テ謝狀ヲ授與シ以テ其詭計ヲ濟シ之レヲ成就セリ而シ
テ下院適々銀行事業検査委員ヲ撰任シタルニ取締役等ハ謀々
之レヲ非難シ全ク無益ノ干渉ナリト公言セリ
下院ニ於テモ亦タ虚言詭術ヲ逞シ以テ民心ヲ欺クコトヲ勉メ
タルモノナルニ又タ頻リニ其委員ヲシテ銀行會計ノ内情ヲ檢
査セント主張スルヲ見レハ其狀恰モ見戲ニ齊シ而シテ該検査
委員ノ事タル今ヤ全ク無益ナリ蓋シ該委員其検査ヲ為スノ間
ニ不圖銀行取締役等カ計策ノ事ヲ記スル一草案ヲ見出シタル
ヲ解明スルハ則チ其検査官將タ其無益タルヲ知ルヘシ即チ
其草按ニ記載スル所ニ因テ副頭取「ロル」トシ氏及ヒ取締役「ホ
サンク」エツト氏ノ如キハ銀行紙幣交換禁制ヲ以テ特リ政府ノ命
ニ由ル所ニシテ敢テ銀行ノ與リ知ル所ニアラスト誓テ大言シ
タリシト雖ヒ其實ハ二月二十一日及ヒ二十四日ニ銀行ノ代理

委員トシテ四ツト氏ニ使ヒシ其金庫既ニ欽定ノ状ヲ具進シ金
貨拂ノ停止ヲ促シ同氏ノ干渉ヲ請ヒシ委員ノ其二人ナリシヲ
發攬スルヲ得タリ此ノ事情ヲ知ルキハ検査官亦タ蛇足ト云ハ
サルヲ得ニヤ奸計詐術既ニ此ノ極ニ至レリ豈ニ奇怪ノ甚シキ
モノニ非ラズ乎此ノ外ニ猶ホ一奇事ノ笑ヘキモノハ銀行二月
二十五日土曜日ニ至タル迄其金庫在金ノ正額ヲ秘シテ議院ニ
スラ猶ホ且ツ之レヲ秘セント企テタリシコト是ナリ當時銀行
ヨリ差出シタル營業計算ノ帳簿ニ於テ既ニ割引セシ手形及ヒ
証券ヲ以テ正貨及ヒ金銀塊ト混同シテ之レヲ一欵條ニ合記シ
テ其種類ヲ明記セサリシヲ見ル蓋シ銀行其營業ノ衰狀ヲ議院
ニ報告スルニ當テヤ唯タ一般ノ數額ヲ記スルノミニシテ正
シク其欵條ヲ類別シ其細目ヲ詳記セサリシヲ以テ各時限ニ於ケ
ル衰類ノ大略ノ度ヲ知ラシムルニ過キサリシナリ然リト雖ヒ

右検査委員ノ一人タルアレルガイス氏ハ右一般ノ數額ヨリ推
算ヲ立テ以テ銀行其事業ヲ停止セシキニ於ケル在金ノ真額ヲ
發見セント勉メタリ而シテ其推算ノ基ク所果シテ確實ナリシ
ヲ以テ終ニ二月二十五日土曜日ノ晚ニ於ケル正貨ノ殘額ハ僅
々一百二十七萬二千封度ニシテ二月二十八日ニ至リテハ又タ
二十萬封度ヲ減シタリシヲ攬發スルヲ得タリ而シテ副頭取
ルントン氏ノ如キハ其秘術ノ此ノ如ク暴露シタルヲ知リナカ
ラ三月二日ニ至リ最早速ニ前日ノ如ク再ヒ正貨ニテ其紙幣交
換ヲ許容セラレテモ宜シカルヘシト希望セシハ吁何ッ其レ鐵
面ナルヤ夫レ此ノ如キ權謀術數ハ古今史策中決シテ其類ナシ
ト信スルナリ尤ニ掲載スルモノハ即チ當時密設委員ノ調査ニ
附シタル計算書ナリ讀者ノ此レヲ熟覽センコトヲ希望ス
一千七百九十七年二月二十五日ニ於ケル銀行計算書

負債ノ部

封度

振出シタル手形ノ額

二、三八九、六〇〇

租税院手形

一、六七六、〇〇〇

未濟分配金

九八三、七三〇

銀行株券ノ未償額

四五、一五〇

印度年酬金手形ニ於ケル未償額

一〇、二一〇

要求ナキ債

一、三三〇

一千七百九十七年債ノ殘額

一七、〇六〇

未濟愛蘭分配金

一、四六〇

未濟帝債

五、六〇〇

計

五、一三〇、一四〇

外ニ

流通上ノ紙幣

八、六四〇、二五〇

此紙幣額ヲ右ノ計ニ加フレハ

計

一三、七七〇、三九〇

右二計ノ差

三、八二六、八九〇

總計

一七、五九七、二八〇

納金ノ部

割引シタル証券ノ正債并ニ地券

四、一七六、〇八〇

租税院手形

八、二二八、〇〇〇

地所並田宅

六五、〇〇〇

印度會社ニ貸附タル金額

七〇〇、〇〇〇

印紙

一、五一〇

海軍及兵食手形

一五、八九〇

匯米利加税關手形

五四、一五〇

所有ノ十數貨幣

五、三二〇

雜貨

五分利年酬金手形

二四、一五〇
七九五、八〇〇

一千七百九十七年五分利年酬金手形

一、〇〇〇、〇〇〇

拂濟大藏省手形

一、五一二、二七〇

政府へ貸附金

三七六、〇〇〇

割引シテ未タ落手セサル手形

八八、一二〇

大藏省及租稅院ヨリノ手當金

七四〇

政府ヨリ拂渡シタル利子

五五四、二五〇

總計

一七、五九七、二八〇

此ノ計算書ニ於テハ政府昔日銀行ヨリ借入レタル大永期債ハ悉皆コレヲ算入セサルヲ見ル而シテ其債ノ金額ハ當時既ニ一千一百六十八萬六千八百封度ノ巨額ニ達セリ故ニ該計算表ヲ勿々看過シテ熟考セサル人々ハ銀行ノ財政ヲ富裕繁榮ノ情况

ナリト思フヘシ然レモ若シ右計算表納金部ノ諸條款ヲ節分スルキハ則チ第一第三第四第八目ヲ除クノ外ハ諸目皆チ政府ノ銀行ニ對スル公債ニシテ其償還ヲ收稅ニ徵スル証券ニ外ナラサルナリ此ニ由テ之レヲ觀ルキハ銀行紙幣不幸ニシテ若シ佛國讓渡証券ノ如ク全ク不信ニ至タルコトアラハ銀行モ亦チ從テ減亡シタルヤ疑ヲ容レサルナリ其故何トナレハ抑モ收稅タルヤ人皆チ必ラス右無價ノ銀行紙幣ヲ以テ之レヲ收ムヘシ而シテ政府其債ヲ銀行ニ償還スルニモ亦チ必ラス其收稅ニ由テ請取リシ紙幣ヲ以テセサルヲ得ナルカ故ナリ且ツ況ンヤ銀行ノ私借主ノ如キハ勿論該無價紙幣ノ其手ニ觸ル、間ハ之レヲ以テ其債ヲ銀行ニ拂フヘシ故ニ該納金部中價直アルモノハ唯タ正貨及ヒ金銀塊並ニ銀行ニ蓄存セシ小數貨幣ノミニシテ其他ハ價直ナキコト茫々タル空氣ノ如シ而シテ其能ク當日ニ流

通スルモノハ幸ニ人民ノ之レヲ輕信スルニ職由スルノミ今マ
假ニ政府此レ等紙幣ノ全額ヲ全ク償還セサルヲ得サルノ場合
ニ於テ銀行ノ分配金國民ノ日日ノ費用ヲ辨シ且ツ銀行ヨリノ
借金一千一百万封度ヲ決算スルニ充分ナル金額ヲ悉ク正貨ヲ
以テ税ヨリ徵集スルヲ得タルナルヘシト想像セヨ万々能ハサ
ルノ事實ニシテ此レヲ妄想ト云フヘシ若シ果シテ此ノ如キ不
幸ノ場合アリテ此ノ如キ方畧ヲ試タルコトアラハ必ラス國家
百事ノ運動立地ニ停止シ從テ大害ヲ惹起シタルヤ疑ヲ容レサ
ルナリ故ニ當時政府ノ財政々策ノ安危存亡ハ實ニ人民ノ談不
換紙幣ニ信ヲ與フルヲ欲スルト欲セサルトニアリ若シ之レヲ
信セサリシナラハ談政策ハ必ラス盡ク減却ヲ免レサリシナラ
ン
此ノ時ニ當テ議院ニ於テハ權謀術數ノ政策ヲ為セリ而シテ其

所為クルヤ此ノ如キ邪政ニ慣レサル人ニ在テハ之レヲ説クモ
殆ント信セサルモノアルニ似タリ夫レ銀行取締役ハ其意ニ反
シテ其正貨拂ノ停止ヲ蒙ムリタリト確言シ而シテ上ハ四ツト
氏ヨリ下ハ輕賤官ニ至ルマテ嘖々トシテ異口同論ニ其言ヲ和
唱セリ又タ正貨拂停止ハ唯々一時ノ事ナルヘシト云フ一實ニ
真正ナルモノ、如シ然リ而シテ所謂ル密設委員ノ其調査ノ報
告ヲ為セシ後ニ至テ四ツト氏交換停止ヲ六月二十四日迄五十
二日間連續シ議院ノ決議ヲ得テ之レヲ確定センコトヲ建議セ
リ蓋シ四ツト氏ノ胸算ニテハ此ノ五十二日ヲ經ルノ後ハ銀行
ノ勢力挽回シ必ラス前日ノ如ク金銀ヲ以テ其紙幣ヲ交換スル
ヲ得ヘシ而シテ又タ好シテ其交換ヲ許サレンコトヲ請ニ至ル
ヘシト前定セリ此ノ如クニシテ民心自カラ漸々正貨ヲ以テ其
紙幣ヲ交換シ能ハサル銀行ニ慣ラカサレハ恰モ飢馬ノ其鼻頭

數尺ノ所ニ掛ケタル乾草ノ一把ニ由テ誘導セラル、カ如ク若
干時限ノ後ニ金貨ヲ以テ紙幣ヲ交換スヘシトノ虚言ニ由テ屢
々誘導セラレ而シテ識ラズ知ラス其正貨拂ノ期日ノ延期シテ
終ニ實期ヲキニ至ルヲ覺ヘサリシナリ此ノ時ニ當テ「フックス」
氏及ヒ其他數人ノ下院議員ハ皆ナ實際ノ真情ヲ觀察シ屢々其
信スル所ヲ開陳セシト雖凡人コレヲ用ヒサルノミナラス反テ
之レヲ黨派ノ反論トシテ擯斥セリ然リト雖凡其所見タルヤ直
ニ實際上符節ヲ合ハスルカ如ク確徴セシヲ見タリ儲テ彼ノ交
換ノ期日タル六月二十四日モ既ニ近キニ至リ人民再ヒ耳ヲ歌
クテ、正貨拂ノ聲ヲ待ツノ状ヲ顯セリ嗚呼「ト」氏ハ其胸算
失敗シ心膽ヲ寒フセリ而シテ彼ノ可憐、取締役等ハ更ニ其正
貨拂ノ許可ヲ得ルノ榮譽ヲ失セリ此ヲ以テ六月二十二日ニ於
テ又タ一條令ヲ出シ議院集會ノ次會ノ初日ヨリ一箇月間正貨

拂停止ノ延期ヲ達セリ而シテ其後ナ同年即チ一千七百九十七
年十月ニ於テ議院又タ國事處決ノ為メ會議ヲ開キ直チニ銀行
ノ事件ヲ處決セリ乃チ十一月三十日ニ於テ和親確定締約ニ由
テ佛國戰爭ノ終局ヨリ一箇月ノ後マテ正貨拂停止ヲ延期スル
第三決議ヲ發セリ此ノ如ク逐次ニ延期シテ漸クニ民心ヲ慣習
シ以テ其不換紙幣ノ政策ヲ成就シタリ抑モ此ノ政策タルヤ初
メハ唯々五十二日ヲ延期スルノ目的ナリシカ到底二十二年間
其正貨拂停止ヲ連續スルニ至レリ「アミアン」ノ和約ハ一千八百
二年ヨリ一千八百三年迄僅ニ數月ナリシニ其間ニ正貨拂停止
ヲ延期センカ為ニ兩度議院ノ決議ヲ發セリ而シテ一千八百三
年再ヒ戰爭ノ破裂セシキニ當テ翌年其戰爭ノ和親確定締約ヨ
リ六箇月間其正貨拂停止ヲ延期センカ為メ同年十二月十五日
ニ於テ第六回ノ決議ヲ發セリ而シテ此ノ決議ハ延テ終ニ一千

八百十九年ニ及ヘリ夫レ此ノ如キ政策ヨリ起リタル著大ノ事
 變ヲ後章ニ於テ論セシトス蓋シ其事變タルヤ終ニ數年間ニシ
 テ昔日數百年ヲ経テ社會ニ其象ヲ顯ハシタルモノヨリモ猶ホ
 著大ナルモノナリ然レモ此ノ章ノ結末ニ於テハ此ノ財政變化
 ヲ生セシ時限ニ於ケル國債ノ額數ヲ觀察スルヲ以テ適當トス
 即チ當時國債ノ額數左ノ如シ

	元金	封度	利息	封度
一千七百九十三年ノ 戰爭ニ於ケル債	二五七、二一三、〇四三		九、六六九、四三五	
一千七百九十三年ニ 於ケル追加	六、二五〇、〇〇〇		二五二、八一二	
計	二六三、四六三、〇四三		九、九二二、二四七	
一千七百九十四年ニ 於ケル追加	一五、六七六、五二五		七七三、三二四	
計	二七九、一三九、五六八		一〇、六九五、五七一	
一千七百九十五年ニ 於ケル追加	二五、六〇九、八九七		一、二二七、四一五	

計	三〇四、七四九、四六五	一一、九二二、九八六
一千七百九十六年ニ 於ケル追加	四一、三〇三、六九九	一、八五〇、三七三
計	三四六、〇五三、一六四	一三、三七三、三五九
一千七百九十七年ニ 於ケル追加	六、〇八七、六六八	三、二四一、七九〇
總計	四一三、一四〇、八三二	一七、〇一五、一四九

上表ニ據テ觀ルルハ僅々四箇年ノ間ニ國債ハ増シテ二倍ノ巨
 額ニ達セリ而シテ其各年同一ノ比例ニテ増進セサリシモノハ
 通用紙幣ニ變化アリテ其減額スルアルニ因由スルモノナリ蓋
 シ紙幣ノ變化減額ニ付テハ奇怪ナル事多ケレトモ就中コレカ
 為メ人民一千七百九十七年ニ於テハ前年ニ比例シテ稍ヤ多額
 ノ稅ヲ收ムルヲ得タリ殊ニ歳入稅ノ如キハ巨大ノ金額ニ登レ
 ルカ故ナリ余輩今ヤ次章ニ進行シ不換紙幣ヨリ生シタル右ノ
 影響及ヒ其他ノ成果ヲ開陳セント欲ス

第七章終

第八章

一 封度及ヒニ封度紙幣ノ發行ノ紙幣ヲ以テ實地ニ合法貨幣ト為ス。該紙幣ノ影響ノ製造事業ノ擴充。物價ノ大騰貴。物價騰貴ノ地主ニ及ホシタル影響。年酬金ヲ受ルルニ及ホシタル影響。皇俸及ヒ海陸軍士官等テ政府官吏ノ俸給上ニ及ホシタル影響。穀物價直比較表。諸商品價直ノ比較表。紙幣ノ金塊價直上ニ及ホシタル影響。正貨ノ竭盡ノ貿易權衡ノ情況。食物ノ價直ヲ以テ比較シタル給金ノ割合。一千七百八十五年ノ給金ト一千八百五年ノ給金トノ比較。共有地ノ濫觴。共有地圍包議案。共有地圍包議案ノ箇數。讓リ渡シタル共有地ノ面積高。一千八百三年ニ至ルマテ濟貧稅ノ増進。ピット氏ノ退隱。宰相ピット氏共在職ノ初ニ於テハ國內富源ノ堅牢ナルニ誇リ佛

七 歳 省

國アツシニ紙幣發行ヲ侮慢シ詭術ヲ以テ全ク其紙幣ノ信ヲ世
間ニ失ハシメ之レヲ廢滅セシムルニ至リ財政上ノ殊功ヲ實際
ニ建テシト雖氏後チ久シカラスレテ其佛國ニ發行セシ時ニ當
テ屢々雄辯ヲ揮テ嘲ケリ所ノ紙幣ヲ自國ニ發行スルノ已ム
ヲ得サルニ至リ為ニ財政上ノ困難ヲ未シ殆ント英國銀行ヲ滅
亡シ全ク銀行紙幣ヲ廢滅セリ之レヲ要スルニ國ノ破産ヲ為ス
ノ外他ニ施スベキ術ナキニ至レリ是レ余輩前章ニ於テ既ニ觀
察セシ所ナリ而シテ同氏ノ此ノ危峻ヲ免カレシ所以ノモノハ
他ナシ畢竟不思議ノ天運アリテ英國ノ國債政策ニ伴倍シ其危
険ヲ扞制セシニ由ルノミ且ツ同氏ノ漸々習慣ニ依リ以テ其紙
幣策ヲ實行設置セシ騙策ニ由ルノミ且ツ英民ノ性タルヤ甚ク
欺騙シ易ク政府ノ命是レ從フノ奴隸心ニ富ニ政府ノ騙策術數
ノ最モ厭フベク惡ムヘキモノアルモ之レニ甘心スルヲ氣風ア

リテ當時ノ主治者幸ニ其騙策術數ヲ其間ニ逞スルヲ得シニ職
由スルノミナリ
此ノ威カヲ狹ミタル權謀術數ニ由テ幸ニ其危險ヲ免カレタリ
ト雖氏之レカ為ニ奇事怪變ヲ繼發スル一ニシテ止マサルニ
至レリ而シテ今此ノ二三ノ奇事怪變ヲ此處ニ錄スルヲ以テ適
當ト信スルナリ抑モ一千七百七十五年及七十七年ニ於テ小
價格ノ紙幣發行禁止條例ヲ發シタリレヨリ一千七百九十七年
ニ至ル迄ハ決シテ五封度以下ノ價格ノ紙幣ヲ發行スルコトナカ
リシト雖氏銀行ノ大祖タル英國銀行カ初テ刺相ピット氏ノ命ニ
由テ其取締役等ノ誓言セシ所ニ據レハ其本意ニ負キ已ムヲ得
スセ志ノ小貨ト雖氏彼ノ結局ノ見込ナキニ似タル戰爭ノ終末
ヨリ六箇月ノ後マテハ其正貨拂ヲ停止セラレタリシトキニ至
リ初テ終ニ貧困ナル取締役ノ為ニ其拂方ヲ為スベク正貨ノ代

六
歳
省

用物ヲ備ヘタリ其代用物ハ則チ一。封度及ヒニ。封度紙幣是ナリ、
此ノ紙幣ヲ發行スルヤ忽ニシテ國內ニ充溢シ就中該紙幣發行
ノ許可ヲ得タルヨリ又チ地方銀行ノ營業大ニ繁榮隆盛ヲ致セ
リ此ノ他ニ又チ危險ヲ冒シテ做シ遂ケタル政策アリ蓋シ英國
銀行紙幣ヲ以テ合法貨幣即チ何人タリモ苟モ債主タルモノハ
其貸金ノ償還ニ之レヲ請取ルコトヲ辞スヘカラサル通貨トナセ
シコト是ナリ此ノ策モ亦タピット氏ノ例ノ術數ニ出タリ而シテ
ピット氏ハ成ル丈チ此ノ紙幣ヲ以テ強壓ノ通貨ト為スノ形跡ヲ
避ケ而シテ公然法律ノ明文ニ於テ該紙幣ヲ合法貨幣ナリト
ハ掲示セサリシ然リト雖モ又チ法律ニ依リテ各人共負債ノ償
還ニ該紙幣ヲ債主ニ渡スモ敢テ之レヲ不條理トセス而シテ又
タ債主ニ於テ該紙幣ヨリモ別ニ好キ償還ヲ望ムハ自カラ之
レヲ告訴スレハ又チ其意ノ如キヲ得ルノ自由ヲ與ヘタリ而シテ

又チ勿論英國銀行ヲ保護シ貨幣ヲ以テ其紙幣ヲ交換モサルヨ
リ告訴セラル、ノ患ナカラシメ而シテ其交換ニハ專ラ小價格
紙幣ヲ渡サシメリ刺ヘ各人若シ貨幣ヲ以テ該銀行ニ預ケ置ク、
トハ其全額ノ四分ノ三ノ正貨ヲ以テ償還シ其殘額ハ皆チ紙
幣ニテ償還スルコト、定メタリ此ノ故ニ英國銀行紙幣ハ假令
法律上合法貨幣ニアラスト雖モ實際ノ所ニテハ居然タル合法
貨幣タリシヲ見ル此ノ時ニ當テ金貨ハ全國中決シテ耳目ニ觸
レサル所トナリシカ故ニ何人ニテモ其耳目ニ觸レサルモノヲ
得シカ為ニ、訴訟ヲ起ス事ハ夢猶見サル所ナリシ蓋シ金貨ハ是
ヨリ先キ早ク已ニ空乏ニ至リシナレハナリ然リ而シテ一千七
百七十七年ニ於テ小價格紙幣及ヒ手形發行條例ヲ頒布シ五封
度ノ銀行紙幣ノ發行ヲ許可セシト雖モ一千七百九十四年ニ至
リ政府軍費債ヲ募ルニ當テ英國銀行初テ該五封度紙幣ヲ發行

大 蔵 卷

セリ但シ其時迄ハ其發行ノ特權ヲ有スルモ實際ニ之レヲ行ナ
ハサリシナリ是レ決シテ遺忘スヘカラサルノ事實ナリ英國銀
行ハ既ニ此ノ如シト雖モ地方銀行者ハ皆ナ既ニ右ノ特權ヲ實
行シ以テ紙幣ヲ發行セリ是ノ故ニ一千七百九十三年ニ於テ
ル大荒廢ニ係ハラス一千七百九十七年ニ至テ銀行者ノ數ニ百
三十二人ノ多キニ登レルヲ以テ當時地方ハ紙幣ノ流通稍ヤ既
ニ十分ナリシヲ知ル而シテ同年二月英國銀行正貨拂停止ヨリ
生シタル初度ノ恐慌ノ經過セシヤ否ヤ紙幣ノ發行ハ加速ノ急
動ヲ以テ増進セリ其増進スルノ速ナルヤ恰モ大旱ニ雷雨ヲ得
テ百草ノ滋生スルカ如シ是レ余輩ノ今マ陳述セント欲スル所
ナリ
一千七百九十七年ニ至リテ全ク不換紙幣ヲ英國ニ設置シタリ
而シテ此ノ一千七百九十七年ニ於ケル英國財政安危ノ最點以

未佛國トノ戰爭ニ國力ヲ用ユルハ舊來ニ二倍セリ抑モ此ノ戰
争タルヤ一千八百二年及ヒ一千八百十四年前後兩度少時ノ休
戰ヲ除クノ外一千八百十五年ニ至ルマデ連續シ同年名高キワ
ートルロノ一戰ニ於テ其局ヲ結ヘリ此ノ久シキ時限ノ間ニ
發行シタル紙幣ノ額數ハ實ニ夥多ナリシナリ從テ通貨ノ價格
下落ヨリ生シタル影響及ヒ既往數多ノ交戦ニ由テ惹起シタル
影響等無數ニシテ枚舉スルニ遑マラス且ツ其奇異ナルヲ以テ
此レ等ノ事實ヲ聞クニ慣レタル人ト雖モ其事變ノ夥多ナルト
其性質ノ奇異ナルニ驚サルヲ得サルナリ
夫レ奇異ナル顯象ノ第一ニ觀ルヘキモノハ我カ國ニ於テ綿布
毛布麻布絹布ヲ紡績織製スル機械ノ發明アリテ製造事業既ニ
盛ナリシカ為メ右久シキ戰爭ノ間ニ我カ國其貿易ニ從事スル
ヲ得タルモノ是ナリ抑モ歐列全大陸我カ國ニ向テ其港ヲ閉鎖

セシコト數多ノ時限ナリシト雖モ奇ナルカナ此ノ閉鎖ハ我國ノ
害トナラスレテ却テ之レカ為メ大ニ我カ貿易ヲ増進スルニ至
レリ蓋シ我國タルヤ固ヨリ既ニ海上ヲ統轄スルノ大勢力ヲ保
持セリ故ニ此レニ由テ外國ヨリ物産ノ歐洲大陸ニ輸入スルモ
ノヲ悉ク阻却シテ歐洲大陸ノ需要ヲ斷絶セシムルノ權カヲ有
セリ而シテ當時實際ニ此ノ拒絶ノ政略ヲ施シタルヲ以テ右大
陸ノ諸國ハ大ニ困却セリ蓋シ大陸ハ皆ナ累年ノ戰爭其内地ニ
壊裂シ物産大ニ衰頹シ其需用ニ供スルニ足ラスレテ外國品ノ
輸入ニ依リシ所ナレハ今ヤ殖民地物産及ヒ通常消費ノ製造品
ヲ日用ニ使用スルコトヲ殆ント尽ク廢棄スルニアラサルヨリ
ハ必ス之レヲ其敵國ニ仰カサルヲ得ザルノ情勢ニ至ルリ此ヲ
以テ奇ナルカナ戰爭中始終全大陸ハ局外中立國ノ旗章ヲ揚タ
ル船舶ニ依テ英國及ヒ其殖民地ヨリ殖民地産物并ニ製造品ヲ

供給セラレシヲ見ル故ニ一端我カ國下落シタル紙幣ヲ為ニ金
銀塊多ク海外ニ濫出セシト雖モ貿易ノ權衡幣ニ英國ニ利アル
ヲ以テ彼ノ濫出シタリシ金銀塊ハ再ヒ我國ニ歸セシヲ知ルナ
リ
當時貿易ノ情況此ノ如シト雖モ又タ一方ヨリ觀察スルハ甲
ナル無益ノ征行費ノ為ニ國債額ヲ増加セシカ故ニ必ラス乙ナ
ル征行費ヲ増加セサルヲ得サルニ至レリ即チ甲ナル砂糖嶋ヲ
佛國ノ手ヨリ奪フノ費用ハ著シク乙嶋畧取ノ費用ヲ増加セリ
故ニ英國銀行及ヒ地方銀行ヲシテ各大小額紙幣ヲ發行セシムル
コト益々大ナリ此ノ如ク紙幣ヲ發行スルコト時ヲ追テ増加セ
シヨリ其成果ハ物價ノ總騰貴ヲ生セリ此ノ情勢ニ推移シタル
ヨリ政府ノ歳費甚々大ニシテ各種商人其營業ヨリ得ル呼高ノ
利潤モ亦タ非常ニ巨額トナリシヲ以テ商人ハ皆ナ速ニ紙幣ヲ

悦フニ至レリ蓋シ此ノ輩ハ皆ナ紙幣政策ノ外面ノ影響ノミヲ
知テ一層深遠ナル。正真ノ成果ヲ知ル能ハサルモノナリ、當時田
地ノ大半ハ長期貸地約券ヲ以テ貸セシモノナリシカ故ニ農夫
ハ各種穀物ノ價直騰貴スルヨリ二倍ノ收穫ヲ得タルカ如シ蓋
シ穀物ノ騰貴タルヤ紙幣濫出ニ加ヘテ年季四時ノ變アリテ收
獲唯々其一季ヲ保ツカ故ニ其騰貴特ニ甚シトス、既ニシテ而シ
テ人心大ニ變シ奇異ノ新説漸々全社會ニ浸潤シ其後自カラ貨
幣ハ無用ノ長物ナル論ト題スルカ如キ論題ニテ雜誌上ニ顯ハ
ルハニ至レリ噫復タ何ノ心ツヤ右ノ如ク外面ノ豊富繁榮ヲ現
出シタル間ニ於テ社會ノ一二ノモノハ巨大ノ金額ヲ集メ得タ
リシト雖モ全社會中損害ヲ蒙ムリレモノ多カラスト速了スベ
カラサルナリ當時富者貧者共ニ之レカ為ニ損害ヲ受ケレモノ
固ヨリ多シ地主ニシテ長期貸地約券ヲ以テ其田地ヲ貸シタリ

シモノハ如キハ實ニ非常ノ損害ヲ蒙ムレリ其故何トチレハ借
主ハ各種ノ穀物及ヒ各種ノ畜産其價格ノ大騰貴ニ由リテ幸ニ
資産ヲ作り得タリシト雖モ地主ノ其貸料ニ請取りシ紙幣ハ年
ヲ進テ速ニ其價格ヲ減縮セシモノナルカ故ナリ是レ英國ノ西
南地方廣大ノ牧畜地ニ於テ殊ニ地主損害ノ情況アリシヲ見ル
蓋シ此ノ牧畜地ハ皆ナ終身貸地約定ニテ貸渡セシモノナリ其
他年剛金ヲ受クル人ノ如キハ其歲收確定セルヲ以テ其損害ヲ
蒙ムルコト地主ト同一ナリ然リ而シテ政府官吏ノ如キハ決シ
テ然ラス此ノ情勢ニ推移セサル前數年ニ於テ既ニ上ハ國王ヨ
リ下ハ税関小監吏若シクハ國產收稅賤吏ニ至ルマデ政府官吏
ノ俸給ヲ増サ、ルベカラサルニ至レリ而シテ皇俸ヲ増加セリ
判事ノ給料ヲ増加セリ又ク陸軍大將水師提督ヨリ歩兵水夫ニ
至ル迄海陸軍ノ俸給ヲ増セリ其他苟モ政府ノ使役ニ供スル小

吏ハ皆ナ平等ノ比例ニテ其給料ノ呼高ヲ増加セラル、ヲ得タ
 リ、然リト雖、舊國債主及ヒ年酬金ヲ受クル人或ハ各種定收入
 ヲ有スル人々ハ右俸給増加ノ如キ其損害ヲ補償スヘキノ路ナ
 キヲ以テ非常ニ損害ヲ蒙ルレリ、而シテ就中其損害ノ最モ酸辛
 ナルモノハ勞役者及ヒ貧人ヲ以テ第一トス、異論者アリテ頻リ
 ニ此ノ反對論ヲ唱フルニ拘ハラヌ紙幣過度ノ發行ヨリ勞役者
 貧人ノ損害ヲ生セシヤ決シテ疑ヲ容レザルナリ、何トナレハ則
 チ勞役者ノ給金其勞役ノ種類ニ由テ稍ヤ増シタルヘシト雖、
 概シテ當時勞役者ノ給金ハ紙幣ノ下落高ヲ増シテ受取ル場合
 ニ至タラザリシヤ其レ明ナリ
 右ニ陳述シタル紙幣下落ヨリ生スルノ成果ヲ明了、確實ニ證明
 セシカ為ニ當時ノ記録ニシテ之レヲ確証スルニ足ルヘキモノ
 ヲ舉示スルヲ以テ緊要ト信ス、此ヲ以テ余輩ハ先ッ大抵此ノ時

限ヨリ一千八百十五年戦争ノ終局ニ至ル迄ノ小麦及ヒ其他穀
 物ノ價直比較表ヲ舉示スヘシ

穀物ノ平均價直ノ計真比較表左ノ如シ但シ議院ノ調査ニ
 附セシモノナリ

年紀	小麦		裸麦		大麦		燕麦		蠶豆		碗豆	
	志	片	志	片	志	片	志	片	志	片	志	片
一千七百九十年	四二	一一	三〇	八	二六	九	一七	七	三	六	三二	八
一千七百九十一年	四八	一一	三五	二	三一	九	二一	三	三七	八	三八	四
一千七百九十二年	五一	八	三七	九	三二	〇	二二	〇	四二	六	四六	八
一千七百九十三年	七四	二	四八	五	三七	八	二四	九	四六	八	五三	四
一千七百九十四年	七七	一	四七	〇	三五	七	二一	九	三八	一〇	四三	六
一千七百九十五年	五三	一	三一	二	二七	九	一六	九	二七	六	三三	五

一千七百九十八年	五〇	三	三〇	二	二九	一	一九	一〇	三〇	一	三三	二
一千七百九十九年	六七	六	四三	九	三六	〇	二七	七	四	七	四五	二
一千八百〇〇年	一一三	七	七六	一一	六〇	〇	三九	一〇	六九	三	六七	五
一千八百〇一年	一一八	三	七九	九	六七	〇	三六	六	六二	八	六七	八
一千八百〇二年	六七	五	四三	三	三三	二〇	三六	七	三六	四	三九	六
一千八百〇三年	五六	六	三六	一一	二四	一〇	二〇	三	三四	八	三八	六
一千八百〇四年	六〇	一	三七	一	二〇	四	二二	九	三八	七	四〇	一〇
一千八百〇五年	八七	一〇	五四	四	四	八	二八	〇	四七	五	四八	四
一千八百〇六年	七九	〇	四七	四	三八	六	二五	八	四三	九	四三	六
一千八百〇七年	七三	三	四七	六	二八	四	二八	一	四七	三	五五	一
一千八百〇八年	七九	〇	四七	四	三八	一	二五	八	四三	九	四三	六
一千八百〇九年	九五	七	六〇	九	四七	三	三二	八	六〇	九	六〇	二
一千八百一十年	一〇六	二	五九	〇	四七	一	二九	四	五三	七	五五	九

一千八百一十年	九四	六	四九	一一	四一	一〇	二七	一一	四七	一〇	五一	六
一千八百一十一年	一二五	五	七五	一一	六六	六	四四	〇	七二	八	七三	七
一千八百一十二年	一〇八	九	七〇	七	五八	四	三九	五	七六	八	七八	六
一千八百一十三年	七三	一	四四	六	三七	四	二六	六	四六	七	五〇	〇
一千八百一十四年	七三	一	四四	六	三七	四	二六	六	四六	七	五〇	〇
一千八百一十五年	六四	四	三七	一〇	三〇	三	二三	一〇	三六	一	三八	一〇

此ノ比較表タルヤ嘗テ議院ノ調査ニ附セシ諸報告ヨリツク
 氏ノ抜萃セシ所ノモノニシテ余ハ之レヲ正莫ノ事實ニ最モ近
 カルベシト信ス夫レ「エト」レ「オク」ス「ラルド」ウ「ランド」ソ「ル」ノ物價
 表ノ如キハ、各自其地ノ物價ニ付テハ精密ノモノナリト雖モ常
 ニ全國平均ノ物價ニ超過スルカ故ニ皆ナ上表ノ確實ナルニ如
 カス而シテ右物價表ヲ舉示シタルニ付キ同シク此處ニ其説明
 ヲ付セザルヘカラス即チ穀物ノ價格タルヤ英國ノ如キ四隣環
 海孤立ノ國ニ於テハ其騰貴ト下落トヲ問ハス其國通貨價格ノ

大歳

大歳

變動變化ヲ觀察スルニ最良ノ定規秤量タルコト是ナリ何トナ
 レハ則チ該物品ハ供給需要共ニ甚ク大ニシテ且ツ均シク收穫
 ノ大豊歉アルニアラサレハ決シテ其價格ヲ變セス故ニ穀物ノ
 平均價格ノ變化久シク續ク中ハ仮令騰貴ナルモ下落ナルモ之
 レヲ收穫ノ豊歉ニ歸スル能ハスニハ獨リ之レヲ通貨價ノ變化
 ニ歸セサルヲ得サルカ故ナリ

銀行正貨拂停止ノ全時限中ニ於ケル物品ノ價直ハ皆ナ均シク
 當時我カ國通貨價格ノ下落ヲ證明セリ是レ余ノ信シテ疑ハサ
 ル所ナリ然リト雖氏之レヲ開示スルコト極メテ難シ何トナレ
 ハ或ル物品ノ騰貴スレハ必ス之レカ為ニ鼓舞セラルル所ノ投
 機事業ニ由リテ終ニ其物品ノ供給ヲ増加スルヲ常ニ而シテ
 此ノ供給増加ノ為ニ稍ヤ其物品ノ價格ノ騰貴ヲ抑制セシカ故
 ナリ然レモ余輩若シ二三ノ物品ニシテ其分量ヲ不意ニ且ツ非

常ニ増加スル能ハサルモノヲ舉クルハ其價格ノ比較ニ由テ
 必ラス十分ニ下落紙幣ノ事情ヲ觀察スヘキナリ例之ハ今マ錫
 鉛獸脂及ヒ特種ノ生産ニシテ特別ノ精緻ヲ有スル外國毛ヲ舉
 示シ其價直ニ付キ甲年ヲ以テ乙年ニ比較シ乙年ヲ以テ丙年ニ
 比較スルハ其價直ニ由リテ以テ下落通貨ノ高低ノ証徴ヲ觀
 ルベシ是レ蓋シ穀物ノ市價ニ由テ其証徴ヲ知ルモノト同一轍
 ナリ

表

年紀	錫	鉛	獸脂
一千七百九十二年	志片 九二 一〇三 六六	封度 二八 〇五	志片 三六 至 四一 〇〇
	ホニントウキ 志片	「オチサ」毛 每磅	志 四二 至 四三
			志 四三 至 四七

戦争ノ勝敗盛衰ヨリ時々右物品ノ市價ニ影響シタリシヤ疑フ	一千八百十五年	一千八百十四年	一千八百十三年	一千八百十年	一千八百八年	一千八百六年	一千八百四年	一千八百二年	一千八百一年	一千七百九十八年	一千七百九十六年	一千七百九十四年
	五二八	六八四	三三九	二七四	二二八	二二八	二二五	二二四	二二四	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	六六	六六	六六	〇六	六六	六	六	六六	〇〇	六六	六六	六六
	二二八	三三三	二九九	三三八	四三八	三三八	三三三	三三八	二二二	一九	二二	二二
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇五
	六七	七八	八八	七三	一〇六	六六	六六	五五	四四	三三	三三	三三
	〇六	〇〇	六六	〇〇	〇七	〇七	〇九	〇九	〇七	〇一	〇八	〇八
	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至
	七八	八九	九〇	八四	〇六	六	六	六六	五五	四	四	三
	〇〇	〇〇	六	〇〇	六九	九	九	三	四九	四	〇三	〇〇
	五六	八七	八七	六八	二七	五六	七六	六六	六五	五五	五六	五三
	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至	至至
	六六	八八	九〇	七三	七一	五七	六一	六六	六五	五七	六七	三

容ルハカラスト雖紙幣ノ發行ヨリ平均ノ騰貴ヲ惹起セシヤ
 確乎トシテ明カナリ
 銀行正貨拂停止條例發行ノ後子勿論金銀地金ノ價直直チ騰
 貴セリ然レ其騰貴ノ度タルヤ紙幣價格ノ下落ノ度ト同量均
 一ナラザリシナリ是レ此ノ處ニ其理由ヲ開示セサルヲ得サル
 緊要ノ事實ナリ抑モ金銀塊ノ價直ノ騰貴ヲ抑制セシ源由ニア
 リ即チ左ノ如シ第一金銀塊價直ノ騰貴セシヨリ其影響ハ嚴法
 アリテ之レヲ禁制スルニ拘ハラス貨幣ノ全額ヲ鑄解シ若シク
 ハ之レヲ海外ニ輸出スルニ至レリ余ノ意見ニ由レハ恐ラクハ
 竊ニ之レヲ鑄解シ金銀錠ト為シ以テ金匠ニ賣渡セシモノ其大
 半ニ居ルベシト信ス而シテ當時政府ノ所為ヲ觀レハ其外國在
 征ノ兵隊ニ俸給ヲ供センカ為ニ竊ニ二十一志ノ價格ナルニ
 ア金貨ヲ二十七志ノ相場ニテ多ク買収セサルヲ得ザリシハ世

人ノ能ク知ル所ナリシト雖氏人民ニ對シテハ法律ヲ設ケテ冬
 人正貨(輕量ナラガレハ)ヲ賣ルニ其銘面ノ價格ヨリ高價ヲ以テ
 スル中ハ必ラス之レヲ罰セリ而シテツトヨシグト云フ猶太教
 徒嘗テ其犯罪ニ罹リ法庭ノ審査ヲ受ケシトアリ又夕貨幣ヲ鑄
 解シ或ハ之レヲ輸出スルヲ禁スル罰則ヲ設ケ此レニ觸ルハ
 ハ皆ナ此ヲ罰セリ而シテ人若シ金銀錠ヲ海外ニ輸出セシ中ハ
 之レヲレテ必ラス其金銀錠ハ決シテ貨幣ヲ鑄解セシモノニア
 ラサルコトヲ誓約セシムルコト、定メリ然リ而シテ貨幣ヲ賣
 ルニハ之レヲ賣ル人ト之ヲ買テ處分スル人ト甲乙ニ様アルニ
 アラサレハ決シテ行ハレサリシト雖氏既ニ鑄解シタル金銀錠
 ヲ賣捌クニハ唯夕甲一人ニシテ足ルヲ以テ人皆ナ其煩ナキモ
 ノヲ撰ヒキニヤ金貨ヲ鑄解シ錠ト為シ之レヲ輸出スルニ當テ
 ハ自分勝手ノ名義ヲ偽造シテ誓詞ヲナセリ以上開示スルモノ

則チ金銀塊價直ノ騰貴ヲ抑制セシ第一ノ原因ナリ
 其第二ノ原因ハ全戰爭中貿易ノ權衡我カ國ニ利アリシヨリ為
 メニ金銀共ニ頻リニ歐洲大陸及ヒ其他ヨリ國內ニ流入セシコ
 ト是レナリ此ノ原因タルヤ第一原因ト均シク一千八百十年有
 名ナル地金委員ホル子ル氏ノ調査ニ由テ其事實ノ明了確實ナ
 リシヲ見ル蓋シ稅関ノ計算ニ由テ貿易ノ權衡我國ニ利アリシ
 コト左ノ如シ

表

封度

一千八百五年	六、六一六、〇〇〇
一千八百六年	一〇、四三七、〇〇〇
一千八百七年	五、八六六、〇〇〇
一千八百八年	一、二、四八一、〇〇〇
一千八百九年	一、四、八三四、〇〇〇

右二原因ノ結合シテ金銀地金ノ價格上ニ影響スルノ甚シキニ
千八百十年金銀地金委員ニ報告セシアローン、アセル、ゴード
スミッドノ調査ニ由リテ數年間英國ニ於テ實際該金屬ノ公賣ナカリ
貨トナルニ至リテ數年間英國ニ於テ實際該金屬ノ公賣ナカリ
シナリ而シテ夫レ金銀地金價格ノ騰貴ヲ抑制スルヲ此ノ如ク
甚シト雖モ尚ホ正貨ノ鑄解ヲ故フヘキノ低價ニ至ラス蓋シ正
貨ハ銀行并ニ特許ヲ得シ國內各個人ハ細貨幣トシテ無價ノト
トクニ(私鑄貨幣)ヲ鑄造セシト雖モ僅々數志ヲ陳クノ外ハ悉ク
跡ヲ世間ニ絶ンタリ此ノ奇異ノ情況中ニ於テ左ノ如キ事アリ
即チ輕量ギニヤ金貨ノ如キハ法律上公然之レヲ賣買スルヲ得
ハカ、~~カ~~リシヨリ其價值及テ重量ギニア金貨ニ超過セリ故ニ
當時紙幣五封度ヲ以テ輕量ギニヤ金貨ノ三封度半ト交換スル
ハ容易ナリシ右ノ如ク紙幣價格ノ下落シタルハ明了ナルニ政

府強テ然ラスト為セシハ豈ニ之レヲ厚顔ナリト云ハサルヲ得
ニヤ況ンヤ政府既ニ自カラ竊ニ紙幣二十七志或ハ其上ヲ以テ
價格二十一志ナルギニヤ金貨ヲ買ヒ又夕往昔四志六片ナル價
直ノドルラルヲレテ其流通ヲ維持セシメシカ為メ公然ト五志
六片ニテ取引スヘキヲ違セシニアラスヤ然ルニ尚ホ紙幣ノ減
價ヲ拒辭セシハ嗚呼何ノ厚顔ノ此ク甚シキヤ
今ヤ數百ノ水門ヨリ我カ王國全土ニ氾濫セシ不換紙幣價格ノ
下落ノ勢熾ト共ニ其進路ヲ同レノセシク為ニ萬種ノ物品苟モ
其騰貴ノ行ナハルヘキモノハ悉ク其價直ヲ騰貴スルニ至レリ
ト雖モ持リ勞役ノ給金ニ至リテハ更ニ増加セシ其増加セザリ
シノミナラス却テ益々貧人ヲシテ其活路ニ困マシムル情勢
ニ至レリ地主借地者製造者及ヒ商賈ノ如キハ皆ナ自己ヲ利益
スルノ好機會アル中ハ忽チ之レニ投シ決シテ之レヲ猶豫セザ

リント雖氏勞役者及ヒ工匠ノ給金ニ至テハ其増加ノ事ヲ忌憚
 ニ付セリ而シテ日、用ノ諸物品皆テ既ニ騰貴シテ貧者久シク其
 高價ニ困レシテ而シテ後ニ世間一般ニ勞役者ノ給金ヲ增加ス
 ルノ緊要ナルヲ覺知スルニ至リテ始テ漸ク増加セリ、然レモ猶
 ホ且ツ早ク已ニ騰貴セシ自餘ノ物價同様ノ位ニ至テサリシナ
 リ貧民ハ諸氏ニ先ツテ損害ヲ蒙ルリ又テ諸氏ニ後レテ福利ヲ
 受ケル場合ナリ、悲哉、余輩ハ斯ク論シ来テ今マ殆シト此ノ主義
 ノ確證ヲ得ルノ場合ニ到着セリ、
 余今マ此ノ處ニ一千七百七十三年ヨリ一千八百十二年ニ至ル
 間「アラトフォル」ト寺領ニ於ケル物價諸税及ヒ給金増進ノ明細表
 ヲ掲載スベシ但シ此ノ明細表タルヤ一千八百十四年ニ於テ「日
 レアト、イトスト」氏其確實無誤ヲ誓テ上院ノ調査委員ニ出セ
 シモノナリ此ノ明細表ニ據テ以テ給金及濟貧税ノ増進ハ食用

品及ヒ地稅ノ増加ニ後レシコトノ甚シキヲ見ルヘシ夫レ濟貧
 税ノ如キハ此ノ表ニ於テ寺院及ヒ大道ノ修繕税ト合算セシト
 雖モ尚ホ此レニ由テ其増進ノ遲速ヲ知ルヘキナリ

給料并物價

ブランドホルトノ寺領郡

年	小麦	牛肉	猪肉	借地料	結金	結金	結金	封度	封度
一千七百七十三年半	五二	二四	二〇	一九	一三	〇六	〇三	一〇五	四五
一千七百八十三年半	六二	三三	二〇	〇一	一三	〇六	〇三	一一〇	五〇
一千七百九十三年	九五	七〇	三五	一一	二〇	〇七	〇四	一八四	八〇
一千八百零二年	五二	八二	四三	二一	二四	〇九	〇五	二三二	一〇

歳

夫レ日用品ノ頻リ、騰貴スルニ從テ其騰貴ノ源由ノ天然ト
ト人爲ナルトヲ問ハス之レカ爲ニ勞役ノ報給ニ由テ生起スル
貧民ハ皆ナラス損害ヲ蒙ルヘキノ理由ヲ左ニ摘録スル
タ、マク、レ氏著ス所ノ一千八百三十年出板ノ書ニ據ルモ、亦
ク之レヲ明證スルヲ得ヘシ抑モ「マク、レ」氏ノ立論タルヤ往昔收
税ノ僅少ナリシ中ニ當テハ強健ナル成人ノ一周間正當ノ給料
ハ小麦一ゴトトルノ五分ノ一ナリシト云フ確乎タル事實ニ基
テ推算セシモノナリ故ニ一千七百四十二年ノ昔ニ溯レハ小麦
ノ價直每ゴトトルニ付キ二十九志六片乃至三十志ナルヲ以テ
田舎ノ勞役者一周間ノ給金ハ最少ナルモ六志ニ下ナリシナ
リ此ニ由テ余輩ハ今マ「マク、レ」氏ノ説ヲ所ニ從テ該年ヨリ以未
物價并ニ給金ノ増進ト其各増進割合ノ差ヲ觀察スヘシ一千七

百九十年ニ於テハ每ゴトトルニ付キ五十三志ナリシ然ラハ其
割合ニテ給金ハ十志六片ナルヘキニ然ラスシテ一周間ニ僅々
八志ナリシヲ見ル一千八百一年ニ於テハ小麦非常ニ騰貴シ每
ゴトトルニ付キ一百十五志ノ呼價ニ達セリ、然リト雖モ同年勞
役者ノ給金ハ其割合ニテ二十三志ニ増加セスシテ一周間ニ平
均モテ僅ニ十志ニ至レリ、一千八百十二年ニ至リテハ小麦ノ價
直、每ゴトトルニ付キ一百二十二志八片ノ巨額ニ達セリ、而シテ
當時勞役者ノ給金ハ果シテ二十四志六片ノ割合ニ登リシ乎決
シテ此ノ如キ増進アリシヲ見サルナリ、當時給金ハ僅々一周間
ニ平均十一志ナリシヲ知ル而シテ小麦ノ下落スルニ至テハ給
金モ之レニ從テ平等ノ下落ヲセリ、一千八百二十六年於テ
ハ小麦モ下落シテ五十八志トナレリ而シテ久シクテ勞役者
ノ給金下テ九志トナレリ

勞役者ノ給金其當ヲ得サルヤ「ラウ」氏ノ説ク所ニ由テ此ノ
 如ク明カナリト雖、氏余輩今「右」ニ記スル各時限中收穫ノ増進
 ヲ觀察スル所ハ尚ホ一層明白ニ右給金ノ不正ナルヲ知ヘキ
 ナリ

封度

一千七百四十二年ノ收穫稅	九、〇〇〇、〇〇〇
一千七百九十年ノ收穫稅	一〇、〇〇〇、〇〇〇
一千八百一年ノ收穫稅	一〇、〇〇〇、〇〇〇
一千八百十二年ノ收穫稅	一〇、〇〇〇、〇〇〇
一千八百二十六年ノ收穫稅	一四、〇〇〇、〇〇〇

此ノ如キ收穫ハ勞役者ト勞者ト其一部分ヲ拂シモナリ蓋シ
 日用品ニ課スル稅ハ勞役者ト雖、氏之レヲ消費スル以上ハ免カ
 ンサル所ナリヲ以テナリ此レニ由テ之レヲ觀レハ勞役者ノ受

クル報給増進ノ自餘物品ノ價直并ニ收稅等ノ増進ニ後ル、
 然リト雖、氏紙幣過度ノ發行ヨリ物價ヲ騰貴シ物價ノ騰貴工
 人ニ影響シタル真状ニ付キ直接ノ證據ハ之レヲ左ニ掲載スル所
 ノ比較表ニ由テ觀察スルヲ得ヘシ且ツ又此ノ表ニ由テ右紙
 幣ノ發行ヨリ現出セシ外面ノ繁榮スラ猶ホ且ツ工人ノ受タル
 所ハ極メテ少ナキヲ徴スルニ足ル此ノ表タルヤ余ノ固ヨリ正
 真確實ナルヲ信スルモノニシテ即チ銀行正貨拂停止ノ前後兩
 時限ニ於ケル倫敦諸工人ノ給金及ヒ日用消費品ノ價直ヲ列舉
 スルモノナリ

表

一千七百八十五年ニ於ケル費用	三
屠者肉(八磅)ト四	〇

大歳

此ノ給料ヨリ前ノ合計ヲ減却スレハ残金
右ノ表面タルヤ是レ所謂ル當時頻ニ紙幣ヲ發行セシヨリ来ル
人民ノ繁榮ニ就テノ情况ナリ
勞役者ノ損害ヲ蒙ルコト既ニ斯ノ如ク其レ甚タ大ナリシニ
又々隠然トシテ貧民ノ活路ヲ奪フコト恰モ竊盜ノ如キ政策起
リ逐次非常ノ盜奪ヲ逞フセリ然リ而シテ此ノ政策タルヤ其旺
盛スルニ至ル以前早ク已ニ之レヲ知ルモノアリシ今マ余ノ此
ノ處ニ盜奪ノ政策ト稱スルモノハ貴族等其私利ヲ計リ強テ貧
民ノ救助ノ用度ナル濟貧稅ヲ減少セシヲ指スニアラヌ又々種
々ノ方策ヲ企畫シエリガハス即位四十三年制定ノ原来ノ濟貧
法ノ條款ヲ廢棄セント實際ニ試ニ以テ残忍刻薄ノ所業ヲ貧民
ニ加ヘタリシヲ言フニモアラサルナリ此レ等ノ如キ公然タル
残忍ノ處置ヲ強奪ノ方畧ニ付テハ余又々後章ニ於テ論スル所

アルハ然リ而シテ今マ余ノ盜奪ノ政策ト稱スルモノハ則チ
其始ノ紙幣ヲ發行シ國債ヲ起シタル時ニ胚胎セシ以未當時ニ
至ルマテ巧智ヲ以テ名ヲ共有地圍包ト云フニ假借トテ實施セ
シ政策ニシテ隠然ト貧民ノ産ヲ偷奪スルモノヲ云フナリ而シ
テ此ノ政策タルヤ政府利欲心ノ增長スルニ從テ益々其盜奪ノ
勢力ヲ逞セリ夫レ共有地圍包條例ト名タル盜奪建議案ハ女皇
アレクサンドラノ時ニ發セシモノヲ以テ嚆矢トス而シテ能ク其盜奪
ノ程度ヲ知ラント欲セハ必ス先ツ右共有地ノ歴史ヲ通知セサ
ズ得ス余輩其歴史ニ由テ共有地ノ濫觴ヲ詳カニスルハ必
ラス明カニ其功德ヲ覺ヘ共有地ナルモノハ到底果シテ何等ノ
目的ニ用ヒラレシモノナル乎ヲ確知スベシ
往昔那曼人英國ヲ侵畧シ初メテ封建制度ヲ確立セシハ當テ
我カ國土ノ内王領地ト名クル國王自カラ所有セシモノヲ除ク

大藏省

ノ外ハ皆ナ「バロン」爵ノ貴族等ノ分領スル所トナレリ其「バロン」
ナル貴族ハ王家ニ事アルキハ皆ナ其課役ニ服従スルノ約束ニ
テ國王ヨリ領地ヲ受ケ以テ其拜領地ノ主トナレリ而シテ此ノ
貴族等ハ又夕其領地ヲ分割シテ自己ノ臣屬ニ分配セル而シテ
其臣屬ナルモノハ又夕主家ノ各種ノ課役ニ服従スル約束ナリ
而シテ其所有ノ名稱タルヤ其課役ノ性質ニ由テ一様ナラス蓋
シ右ノ一段ハ余輩既ニ前章ニ於テ開陳セル所ナリ此ノ時限後
教會ノ所領地ノ如キモ右同様ノ情況ニテ其田地ヲ他人ノ借用
スル其借地法ハ恰モ貴族ノ所領地ニ於ケルカ如ク同様ナルヲ
見ル而シテ其教會ノ借地法ハ之レヲ總稱シテ「フランカルノ」
ント謂ヘリ蓋シ「フランカルノ」トハ一般ニ教會ノ田地ヲ借用
スルノ借地法ヲ謂フナリ然レモ「フランカルノ」トシテ字義ハ元
ト上帝ノ用ニ供シタル田地ト云フ義ナリ又夕國王ヨリ直接ニ

王領地ヲ分借セル借地者ハ之レヲ直隸ト名ケリ蓋シ此ノ場合
ニ於テハ君主共借主ニ對シテ貴族領地主ノ位置ニアルヲ以テ
特ニ直隸ノ名ヲ附セリ此レ等數様ノ借地法ニ依テ英國ノ田地
ハ數百年間所有セラレタリ往昔右ノ如キ封建ノ借地法ニ由テ
田地區畫ノ實際ニ行ハレシ所ヲ見ルニ耕耘ノ目的ニハ極メテ
不充分ニシテ久シク其不充分ノ弊ニテ改正サレサリシヲ見ル
蓋シ其往時ハ勿論其後十數百年ノ間英國ノ所長ハ牧畜ノ事業
ナリシ宗教改革ノ時ニ至ルマテハ農業ト稱スルモノハ其畜牧
畜ノ業ニシテ人民ノ食物ニハ動物ヲ以テ供シ穀物ノ如キハ釀
酒ト家畜ノ飼草ニ用ユルニ止マリテ殆ント顧ミサルモノノ如
シ此ノ如ク耕耘ヲ怠タリシ情勢アリシヨリ借地者ニシテ其地
主ノ許可ヲ受ケ田地ヲ分界シテ之レヲ耕耘セリ而シテ其々々
ハ皆ナ其耕作ニ用ユル牛馬ノ為メ一大共用牧場ヲ定メ其牛馬

大蔵省

ヲ耕耘ニ使役セシ後チ毎夕之レヲ右牧場ニ放飼スルノ習俗ヲ
生セリ是レ共有地ノ起リシ根元ナリ然リ而シテ其後チ時ヲ経
テ封建制度漸ク衰頽シ漸次貴族其領地ノ所有權ヲ失ヒ當時下
民ノ扶助者タル教會ノ如キハ又夕頻リニ民權ヲ主唱シ封建制
度ヲ攻撃シ以テ貴族ノ權ヲ減殺シタリレヨリ土地ノ所有權皆
ナ下民ニ歸シ近世ノ所謂ルブリーホルド及コッピールホルドナル
借地ハ皆チ不羈獨立ノ區分所有地ト變セリ然レモ右共有牧場
ニ至テハ依然共有地ノ舊ヲ改メザリシナリ而シテ其共用牧場
タルヤ周チ英國全面ニ充滿セリ苟モ今日一市街ヲ為ス地ニハ
必ラス往昔ノ共用牧場ノ一二ヲ含有スルヤ疑ヲ容レサルナリ
共起初既ニ^此ノ如キ情況ナレバ根原ノ那曼地主ヲ除クノ外ハ
一人ヲモ特別ノ所有權アル人ナキヲ以テ必ラス之レヲ共有産
トシテ置カサルヲ得ザリシナリ蓋シ共有ノ名ハ此義ニ基ツク

モノニシテ決シテ瘠土不毛ノ地ト云フ義ニアラス此ノ名稱ノ
中ニハ我カ王國ニ於ケル最良ノ草地ト云フ義ヲ含有セリ而シ
テ右ハ世ニ封建制度上ノ保有地法ヨリ近世ノ保有地ニ轉移ノ
時代ト稱スル時限ニ於ケル共有地ノ情況ナリ然リト雖モ星移
リ物換リ耕耘ノ業漸ク旺盛シ牧畜ノ業衰頽ニ趣クニ及レテ益
ニ精密ニ土地ヲ分界スルノ世ト為テ富豪ノ農夫ハ右共有地ヲ
以テ甚タ不便利ナル保有地ト考ヘ委棄シテ之レヲ問ハサルニ
至レリ此ニ於テ終ニ右共有地ハ貧民ノ共有産トナリ而シテ自
然貧民等右共有地ノ近傍ニ團結シ以テ漸次村落或ハ市街ヲ組
織セリ是レ後チニ寺領ヲ分畫シタル市^{カウニ}ノ根源ナリ古説明ノ
事實ニ由テ觀察スレハ右共有地ノ廣大ナルト其價直ノ巨大ナ
ルヲ知ルヘシ而シテ又夕之レカ為ノ必ラス國內ノ貧民ニ救者年
間非常ノ富源ヲ與ヘタリシヲ確知スルニ難カラサルベシト信

大藏省

スルナリ
一千五百九年即チ大盜、ヘンリ、ハ世即位ノ時ニ至ルマテ貧民ノ
ノ情况ハ上ニ記スルカ如クナリシナリ右ノ時限ヨリ後ナ當時
ノ事情源由ヲ為シテ諸般ノ變動ヲ社會ニ喚起セリ而シテ此ノ
變動復タ他ノ變動ノ源由トナリテ其結果タルヤ終ニ法律ノ形
ヲ假借シテ共有地ヲ貧民ヨリ盜奪スルノ慘状ヲ現出セリ抑モ
此ノ慘状ノ本根ハ必ラス遠クヘンリ、ハ世統治ノ時ニ制定シ
タル毒惡ノ法令ニ因由スルヲ知ルヘシ其法令タルヤ元ト王位
相續ノ争ヨリ起リ終ニ議院ノ議負ヲ撰奉スルニ其人民ノ分限
ヲ四十志、ナリ、ト定メ、狹隘ノ人民ニ限リシモノナリ
此ノ法令ニ由テ撰舉者トナリシ人々ハ皆テ急慢懦弱ニシテ國
ノ為メニ尽スル志氣ニ乏シク利ノ為ニ左右セラルル輩ナリシカ
故ニ此ノ等ノ撰ニ由リテ議院ニ出タル被選者モ亦テ皆テ卑屈

ニシテ利ノ為ニ制セザレハヘンリ、ハ世ノ暴威ニ屈從セシモ
ノニ外ナラス故ニ暴王、ヘンリ、ハ世益ク殘虐^{無道}逞ニ貧民ノ難儀ヲ
顧ミズ宗教改革ノ名ト形ヲ以テ教會ノ所有地ヲ強奪セリ此レ
貧民其活路ヲ恃ミシ共有地ヲ盜奪セラル、ニ至ルヘキ判然タ
ル萌芽ニシテ即チ其第一因ナリ而シテ第二因ハ即チ此ノ時ニ
當テ米國ニ於テ多クノ鑛山ヲ開發シ忽チ金銀大ニ流入シ為ニ
物價非常ニ騰貴シタリシモノ是レナリ而シテ其影響ハ稍ヤ第
一因ニ越タリ抑モ物價ノ大騰貴タルヤ耕耘ノ業ヲ擴充シ牧畜
ノ業ヲ衰頹セレメタリシ一原因ナルヲ觀ル是レ農業ハ勞作ノ
報酬ヲ得ルコト牧蓄ヨリ速ニシテ且ツ大ナルカ故ナリ農業ノ
起ルニ從テ人民殊ニ窮民ノ食物ヲ變化シタリシヨリ大ニ人口
ノ繁殖ヲ鼓舞セリ而シテ其繁殖ノ勢ハ益ク盛ニシテ續テ今日
ニ至リ夫レ人口ノ繁殖スルニ從テ唇由ノ代リニ低價ナル穀

大 歲 省

物及馬鈴薯ノ如キ食物ヲ代用セザルハカラサルニ至リシハ又
 タ必^然ノ理ナリ而シテ其需用益々増スニ從テ其價値益々騰貴
 セリ且ツ國債政策ヲ實行セシヨリ稅ヲ人民ニ課收スルヤト特
 ニ甚シク為ニ右ニ開示シタル物價ヲ騰貴スル諸原因ノ影響ヲ
 ニテ益々大ナラシメナリ而メ一千七百九十七年ニ於テ英國銀
 行其正貨辨ヲ停止セシヨリ紙幣ハ全ク其制限ヲ脱シ十分ノ自
 由ヲ以テ發行流通スルニ至リ此ニ於テ地産ノ價値非常ニ騰貴
 シ從テ農耕ノ利益大ナリシハ勿論且ツ其利益ヲ得ル迅速ニシ
 テ又ク其利益タル一時ノ利ニアラズ永久ノ利アルニ似タリシ
 ヲヨリ地主及ヒ其借主ハ皆ナク大ニ貪慾心ヲ增長其所有スル舊牧地
 ヲ耕耘スルヲ以テ飽キ足ラス其時ニ至ル迄農民ノ共有物タリ
 シ共有地ヲ奪テ之ヲ耕耘スルニ至レリ終ニ數年ヲ出ス共有
 地圍包議案ノ決議ニ由テ貧民ハ悉ク之ヲ掠奪セラレニ至

レリ抑モ初テ此ノ掠奪ヲ試タルハ女皇アンニ統治ノ時ニアリシ
 ヤ疑ヲ容レサルナリ然レ氏左ニ記スルカ如ク各時限ニ議決シ
 タリシ圍包議案數ノ畧報ニ據ルハ右共有地ノ大没入ナルモ
 ノハ一千九十七年紙幣發行ノ夥多ナリシト收稅ノ大ナルカ為
 ニ非常ニ物價ヲ騰貴セシメ源因スルヲ確知ス蓋シ當時ノ地
 主地産ノ大騰貴ヲ觀テ共有地ヲ耕耘スルノ大利アルヲ察シ其
 貪慾心ニ誘惑セラレ終ニ此ニ至リシヤ明ナリ

共有地圍包條例

箇數

女皇アンニ統治ノ時	三
ジョージ一世統治ノ時	一六
ジョージ二世統治ノ時	三二六
ジョージ三世統治ノ時 <small>(其後)</small>	一五三 二二八 七
合計	四〇六四

右没官法令ニ由テ一千七百六十年以來分界セシ共有地ノ面積ハ「ボルテ」氏ノ説ニ據レハ即チ左ノ如シ同氏ノ説ク所ノ面積ハ非常ノ巨額ニシテ信シ難キニ似タレモ上ニ開陳シタル所ハ決シテ正真ノ事實ニ遠カラサルヘシト信スルナリ

表

年 紀	エリタル
一千七百六十年ヨリ	七〇四、五五〇
全 七十年マテ	
一千七百七十年ヨリ	一、二〇七、八〇〇
全 八十年マテ	
一千七百八十年ヨリ	四五〇、一八〇
全 九十年マテ	
一千七百九十年ヨリ	八五八、二七〇
全 八百年マテ	

(但シ「ボルテ」氏著ス所ノ國民開進論ヨリ採萃ス)

一千八百十年ヨリ	一、五五〇、〇一〇
全 十一年マテ	
一千八百二十年ヨリ	一、五五五、九九〇
全 二十年マテ	
一千八百三十年ヨリ	三、七五、一九〇
全 三十年マテ	
一千八百三十四年ヨリ	一、三三、五九〇
全 三十四年マテ	
合 計	六、八三六、五四〇

右面積ノ合計中ニハ一千七百六十年前ニ議定セシ二百四十五個ノ議案ヲ含有セス故ニ今マ之レヲ合算スルハ面積ノ全數七〇万エリクルニ超過スヘシ而シテ每一エリクルニ價直ヲ十^五志ト算定スルハ毎年ノ價格五百^五万封度ニ當レリ
抑モ右共有地奪没ノ奸策ヲ實際ニ施セシ方法ヲ觀ルニ其主^要ハ則チ左ノ如シ右共有地接境ノ田地ヲ所有スル地主ノ此ノ共有地ノ首長ニシテ共有地ヲ處分スルノ權アリト云ヘリ而シテ各分界法令中ニ共有地賣渡委員右共有地ヲ圍包スルニ當テ

民等久用ノ権ニ由テ其配分ヲ求ムルハ委員ヲシテ若干ノ金額ヲ之レニ與ヘシムルノ條目ヲ挿入セリ是レ故ニ貧民ハ其迷惑ヲ訴フル所ナク已ムヲ得スシテ右ノ金額ヲ受取りテハ服セサルヲ得サリシナリ然ルニ右共有地ハ尽ク其近鄰地主然タル名義ヲ設ケシ人々ノ分奪スル所トナレリ此等ノ地主ノ皆ナ右共有地ニ付テ公平確實ノ處分權ヲ有セサリシヤ確乎トシテ其レ明ナリ余輩若シ右權利ノ在ル所ヲ踪跡スルハ所ナレバ昔此國土ヲ侵畧セシ鼻祖那曼貴族領地主及ヒ封度ノ諸侯ニ之レヲ歸セサルヲ得ス而メ此ノ人々ヲ除クハ右ノ權利ハ市區ノ貧民ニ在ルヤ其レ明ナリ何トナレハ數百年間保持シ来リシ慣習ハ久用ノ權トナリ久用ノ權ハ則チ所有權トナルカ故ナリ然リト雖モ貧民モ亦之レヲ讓渡スヘキ權力ヲ有スルモノニテシテ蓋シ右共有地ヲ共有セシ貧民ノ所有權限ハ其終身唯ク

之ニ生活スルノ利ヲ有スルニ止マリ此ノ限ヲ越テ又ク共有地ヲ處分スルノ權ナシ故ニ皆チ其共有地ヲ其子孫ニ傳ヘ決シテ之レヲ他人ニ讓リ傳ルコトヲ試ミス又ク之レヲ他人ニ讓リ傳ルノ權ヲ有セサルナリ既ニ之レヲ他人ニ讓リ傳ルノ權ナシトスルハ又ク之レヲ賣リ或ハ債ノ抵當トナス能ハサルヤ言ヲ待タス夫レ久用ノ權ヲ有スル貧民ニ於テマテ猶ホ且ツ之レヲ處分スルノ權ナキコト此ノ如シ況ンヤ其他ノ人ニ於テオヤ夫レ然リ而シテ如何セシ法律ハ議院ノ管掌スル所ナリ而シテ當時ハ其議院ノ議員ハ專ラ當時地主ノ撰舉セシ所ニシテ其大平ハ皆チ地主ヨリ組織セシモノナリ此ヲ以テ右共有地團會議案ハ少しノ妨礙故障ニ遭遇セス煩勞ヲ生セスシテ議院ニテハ至レリ

右剝奪ノ事業ハ其レ大ニ増進セシカニ又チ一方ニ於テハ貧

税ノ非帝ニ増進スルハ固ヨリ必然ノ理ニシテ怪ムニ足ラサル
ナリ一千八百三年ニ至リ濟貧税既ニ五百三十四万八千二百四
度ノ巨額ニ達セリ是レ女皇「アン」統治ノ歳入全額ニ均シキ金額
ナリ蓋シ是レ英將「マルゴロ」氏其同盟ノ聯軍ト共ニ佛王路易
十四世ノ軍隊ニ向テ戦ヲ交ユル年代ノ英國歳入ノ比較アルモ
ノナリ此ノ時ニ至テ稍ク民心ニ變化變動ノ徴ヲ現出シルニ至
レリ是レ又夕當時ノ情勢ヲ觀察スルハ決シテ怪ムニ足ラサ
ルナリ蓋シ當時英國ノ情勢ヲ觀察スルニ内ニシテハ収税ノ課
集益々甚シク民大ニ困弊シ稍ク怨ヲ抱キ不満ヲ鳴ラスノ情況
ナリシニ宰相「ピット」氏ノ施スル策ハ一トシテ人民ノ不幸尚
ホ又夕當時人民ノ頭上ニ重大ノ艱難ヲ蒙ムリ而シテ宰相「ピット」
氏ノ政策悉ク失敗シタルカ故ニ人民ノ不滿意ヲ鳴ラヌニ至リ
シノ自然ノ勢ナリ當時拿破崙ハ第一等「コンチユル」ノ帝ヲ以テ無

二、権ヲ佛國ノニナラス歐洲全土ニ振ヘリ故ニ英國ノ佛國ニ
於ケル戦争モ到底勝算ヲ得ルノ見込ナキカ如キニ至レリ而シ
テ宰相「ピット」氏ハ則チ此國歩ノ艱難ヲ惹起セシ者ト原因ナリ
カ如キヲ以テ終ニ其職ヲ解ニシテ非戦主義ノ継職者ニ譲リ
佛氏及ヒ其全権ヲ破崙ト和ヲ講セサルヲ得サルニ至リ其時
辭シテ草莽ニ退隱セリ右宰相ノ更迭ニ繼テ發生シタル事實ノ
説明ハ余輩之レヲ次章ニ譲ラサルヲ得ス

第八章終

大 歳 首



